

孟德斯鳩著  
何禮之重譯

萬法精理

第四冊  
自卷八  
至卷十

21087

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

登錄 番號	第	號
社會科學門		
法律部		
種別	款	項
目次		
全	18	冊 / 內第 4 冊
分類 番號	第 320.8	號

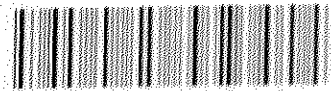
福岡第一師範學校圖書		
門部		
部		
架號	番號	入冊內
	五二	四

T1A1

23

Ka11ba

圖書 和圖書 週



a 1 3 8 0 3 2 2 5 1 8 a

福岡教育大学蔵書

孟德斯鳩著  
何禮之重譯

# 萬法精理

明治九年  
一月刻成

何氏藏版

## 萬法精理第四冊目次

卷之八 政府ノ元氣ノ頽壞スルヲ論ス

第一回 總論

第二回 民主政ノ元氣ノ頽壞スルヲ論ス

第三回 全一ノ理ノ其度ニ過キタルヲ論ス

第四回 人民ノ頽壞セル特因ヲ論ス

第五回 貴族政ノ元氣ノ頽壞セルヲ論ス

第六回 立君政ノ元氣ノ頽壞セルヲ論ス

第七回 全上

第八回 立君政ノ元氣ノ頽壞スル危險ヲ論ス

第九回 貴族ハ甘シテ王位ヲ扞禦スルモノナル

ヲ論ス

第十回 專制ノ元氣ノ頽壞スルヲ論ス

第十一回 政府ノ元氣ノ善惡ニヨリ生マル處ノ效果ヲ論ス

第十二回 同上

第十三回 有德ノ人民ニ誓詞ノ效用最モ著シキヲ論ス

第十四回 憲法ノ改革ハ至微ナルモノト雖モ動モスレハ一國ノ元氣ヲ頽壞スヘキモノナルヲ論ス

第十五回 三政治ノ元氣ヲ保持スルノ良策

第十六回 共和政獨有ノ性質

第十七回 立君國獨有ノ性質

第十八回 西班牙王國ノ情實

第十九回 專制政獨有ノ性質

第二十回 前文ノ結意

第二十一回 支那帝國ヲ論ス

卷之九 守軍ニ關涉スル法律ヲ論ス

第一回 共和國ノ安全ヲ保ツヘキ方法如何ヲ論ス

第二回 聯合ノ政府 就中其体共和ニハ須ラグ同類政ノ諸邦ヲ以テ編制スヘキヲ論ス

第三回 聯邦ニ缺ク可ラサル品質ヲ論ス

第四回 專制ノ政府、其安全ヲ謀ル方法、如何ヲ論ス

第五回 立君政、其安全ヲ保ツ方法、如何ヲ論ス

第六回 一國守兵ノ總論

第七回 考論

第八回 特殊ノ事情ニ依テハ、守兵ノ數ヲシテ攻

兵ヨリ少カラシムヘキヲ論ス

第九回 列國彼此比較ノ兵勢ヲ論ス

第十回 隣國ノ微弱ナルヲ論ス

卷之十 攻軍ニ關涉スル法律ヲ論ス

第一回 攻軍ヲ論ス

第二回 戰

第三回 得勝者ノ權利ヲ論ス

第四回 亡國ノ人民ノ利益

第五回 レラキース王ゼロン

第六回 共和政ニテ他國ヲ克服シタルヲ論ス

第七回 全上

第八回 全上

第九回 立君國ニテ他國ヲ克服スルヲ論ス

第十回 一ノ立君國、他ノ立君國ヲ克服スルヲ論ス

第十一回 亡國ノ人民ノ風儀ヲ論ス

第十二回

塞耳士

按百兒面王ニシテヲ  
イディヤヲ征服セリ

法律ヲ

論ス

第十三回

瑞典王チャールレス第十二世

第十四回

歷山帝

第十五回

亡國ヲ保存スルノ新策

第十六回

專制君ニテ他國ヲ克服シタルヲ論ス

第十七回

全上

萬法精理第四冊目次終

萬法精理卷之八

何禮之 重譯

政府ノ元氣ノ頽壞スルヲ論ス

第一回 總論

政府ノ頽壞スルハ其初メ元氣ノ頽壞スルニ起ルヲ常トス

第二回 民主政ノ元氣ノ頽壞スルヲ論ス

夫レ民主政ノ元氣ノ頽壞スルハ全一ノ理全然滅熄セ  
レ時ノミニ限ルニアラス全一ノ理漸ク長シテ適度ヲ  
過キ國民タル者原已レヲ治御セシメントシテ選舉セ  
レ所ノ宰官ト全一ノ地位ニ在ンヲ希圖スルノ時ニ

於ケル亦之アリ此時機ニ方テハ人民ハ已カ曾テ委托  
セシ屢ノ諸權ニ担當シ得ヘキ勢ニ馴致スルカ故ニ萬  
機ノ事務ヲ収攬シテ親ラ之ヲ治理シ元老院ノ論議ス  
可キ者ヲ論議シ宰官ノ執行ス可キ者ヲ執行シ法官ノ  
判斷ス可キ者ヲ判斷セント欲スルナリ

其勢茲ニ到ル時ハ已ニ夫ノ懿德ナルモノ共和政ノ中  
ニ存立スル能ハス人民親ラ宰官ノ職掌ヲモ執行セン  
ト欲スルヲ以テ其命令ヲ遵奉セス元老院ノ論議ヲモ  
亦輕侮蔑視スルヲ以テ元老タル人ヲ敬重セサルニ至  
ル苟モ養老尚齒ノ風行レサルハ子トシテ父母ニ孝  
敬ヲ盡サス妻トシテ夫ニ從順ナラス從僕トシテ主人

ノ順指ニ抗抵スルハ必然ナリ若シ此專恣ノ弊人民一  
般ニ浹洽シテ世上ノ習俗ト為ランニハ宰官ト為リテ  
人民ヲ駕御命令スルノ困難ナルハ正ニ國民ト為リテ  
宰官ノ命令ニ順從遵服スルノ堪ヘ難キト敢テ輕重ア  
ルヲナク妻子奴隸ハ皆ナ順從ノ羈絆ヲ脱シテ行儀秩  
序或ハ懿德ノ如キハ國中ニ絶テ其影響ヲ見サルニ至  
ラン

諾那風ノ會筵記ニ共和國ノ人民全一ノ理ノ度ニ過キ  
タル景況ヲ摸寫シテ真ニ逼ルヲ覺フ即チ席上ノ賓客  
各其順ニ沿フテ自ラ満足セルノ所以ヲ演述セリチヤ  
ミデスナル者曰ク吾ハ吾カ貧窮ナルヲ以テ満足セリ

曾テ吾カ富者タリシニ方テハ他人ヲ害スルヨリモ寧  
 口他人ニ害セラル、ノ患アリレ故ニ止ムヲ得スレテ  
 告發者訐訴者ニ諂媚レテ常ニ其歡心ヲ買ヘリ而メ吾  
 政府ハ絶エス吾ニ命レテ新課ノ税金ヲ出サレメ吾之  
 ヲ拒ムヲ能ハサルモ吾カ漸ク貧窮ニ陥リテヨリ吾カ  
 權威ハ却テ増加レ嚮ニハ他人ノ吾ヲ威迫セシモ今ハ  
 吾レ他人ヲ威迫スルニ至レリ吾レハ吾カ意ノ欲スル  
 所ニ行キ其欲セサル所ニ止ル富ハ既ニ吾身ヲ離レ去  
 テ吾レニ自由ノ路ヲ與ヘリ而シテ嚮ニハ吾レ奴隸々  
 リレモ今ハ乃チ君主ト為レリ嚮ニハ吾レ租税ヲ其和  
 ノ政府ニ納メタリシモ今ハ其ノ政府ニ於テ吾ヲ扶持

給養セリ今日吾ハ物ヲ得ルノ望アリテ之ヲ失フノ恐  
 アラス

人民ノ信任委托ヲ得タル人官已カ頽壞セルヲ隱蔽セ  
 ントシテカメテ人民ヲ頽壞セシメント欲スルニ至ル  
 時ハ必ス此ノ如キ不幸ナル景況ニ淪胥セシムルモノ  
 ニテ好功喜事ノ志ヲ裝飾センカ為メニハ頻リニ國家  
 ノ盛大ナルヲ稱揚シ已カ貪婪饕餮ノ意思ヲ曲庇セン  
 カ為メニハ始終人民ニ諂諛レテ怠ラサルモノナリ  
 抑モ頽壞腐敗ノ風ヲ為スヤ其初盛シニ之ヲ事トスル  
 モノ、間ニ流行シ其風漸ク蔓延シテ操守ノ氣概薄弱  
 ナル者ニ波及ス於是人民ハ公財ヲ掠メテ各其私橐ヲ



滿クシ其身ハ放逸ニシテ政務ヲ管理シ其身ハ貧窮ニ  
シテ奢侈ヲ享用スルニ至ル可レ其身放逸ニシテ而モ  
奢侈ヲ極ムルカ如キハ公財ヲ濫用スルニアラスレテ  
何ソ能ク其無厭ノ需求ヲ満足スヘキモノアランヤ  
黃白ノ光力ヲ以テ人民ノ選舉ヲ買得セシヲ見ルモ亦  
更ニ怪シムニ足ラス蓋レ人民ニ分外ノ贈物ヲ為スニ  
ハ必ス先ツ分外ノ収歛ヲ為サ、レハ能ハス此事ヲ達  
センニハ國家ヲ顛覆スルニアラサレハ能ハス故ニ人  
民其自由ノ虛影ニ依テ所得ノ利益愈大ナレハ之ヲ失  
フノ危道ニ臨ムモ亦愈近シ此機ニ乘レテ暴官汚吏交  
起リテ苛虐ノ政ヲ為シ人民ノ自由權ハ僅ニ殘喘ヲ存

スルアルモ之ニ堪ユ可ラス終ニ一個ノ霸主勃興シ人  
民ヲ視テ已カ魚肉ト為スモノアラン茲ニ至テ人民ハ  
嚮ニ頽壞ノ風ニ依テ所得ノ利益ヲモ剥奪セラル可キ  
ナリ

是ヲ以テ民主政ニハ二個ノ偏極ノ必ス避ク可キモノ  
アリ全一ノ理ヲ失スルモノト其度ヲ超過スルモノト即  
チ是レナリ凡ソ全一ノ理其平ヲ失スルニ方テハ貴族  
政ニ變セサレハ則チ立君政トナラン然レバ其度ヲ過  
クルモノニ於テハ必ス專制政ト為ルナリ是レ共和政  
ノ變レテ專制政ト為ルハ必ス霸主ノ為メニ其國ヲ奪  
ハル、片ニアルヲ以テナリ



希臘ノ共和政ヲ頽壞シタル諸人ハ皆ナ曾テ虐民者タ  
リシニアラサルコトハ固ヨリ明瞭ナリ然ル所以ノモノ  
ハ他ナシ彼ノ國民ハ辯論ヲ愛セシテ鈴鑼ノ業ヨリモ  
甚レク加之共和ノ政治ヲ顛覆スルコトヲ憎ムノ氣力始  
終衰微セサリシニ依レリ故ニ其政体已ニ綱紀ヲ解キ  
レドト雖モ霸政ニ變スルコトナクシテ國祚ヲ失ヘリ  
然レ氏西拉仇斯ハ小國ノ星羅セル間ニ位置ヲ占メソ  
ノ寡人政ハ一變シテ專暴政トナリ而メ元老院アリテ  
治圖ニ關與セシト雖モ其勢ノ微々タル史冊上尚其有  
無ヲ徵スルニ難シ之ヲ終フルニ一國ノ非常ニ頽壞シ  
タル結果トシテ其人民ハ非常ノ困苦ヲ被ムレリ此國  
ハ虐

民者ヲ放逐シテヨリ外國人ヲ招キ或ハ雇給ノ兵隊ヲ  
募リテ國民ト爲シ遂ニ内亂ノ種ヲ播ケリ○此國民ハ  
雅典ト戰テ克ナタルコト竟ニ共和政ヲ變革スルハ原  
爲レリ○甲乙ノ宰官アリ俱ニ少年ナリシカ甲ハ乙ノ  
子ヲ奪ヒ而メ乙ハ其怨ヲ報センカ爲メニ甲ノ妻ニ此  
姦通セル等ノコト其原因トナリテ共和政變華セリト此  
國民ハ恒ニ放肆無賴ニ流レサレハ必ス暴虐ノ政令ニ  
陷リ或ハ不羈ノ人民ト爲リ或ハ霸政奴隸ト爲リ此ニ  
流レサレハ必ス彼ニ陷リ其轉變ノ倏忽ナル恰モ暴風  
ノ如シ故ニ外面ノ勢力ハ強盛ナリシト雖モ若シ一タ  
ヒ外國ト事アルニ及テハ直ニ一國ノ轉覆ヲ招ケリ予  
以爲ラク此國ノ中心ニハ億万ノ人民アリ而メ其命運  
ヲトスルニ虐民者ヲ選立シテ其暴虐ニ苦シメラルハ  
乎然ラサレハ自ラ虐民者ト爲リテ他ヲ惱マス乎常ニ

其一ヲ免ル、能ハス嗚呼慘怛ナル哉

第三回 全一ノ理ノ其度ニ過キタルヲ論ス

真ノ全一ノ理ト其理ノ度ヲ過キタルトノ距離ハ猶オ  
霄壤ノ相懸隔スルカ如ク然リ抑モ真ノ全一ノ理ナル  
者ハ各人他人ヲ號令スヘキ字義ヲ含ムニアラス又各  
人他人ノ號令ニ順從ス可カラサル字義ヲ含ムニアノ  
ス唯全等ノ人民ニシテ或ハ號令シ或ハ順從スヘキヲ  
謂フノミ敢テ從屬ヲシテ主長ノ權威ヲ脱セシムルヲ  
慫慂スルノ謂ニアラス唯其主人タル者ハ素已トト全  
等タルヲ知ラシムルノ謂ヒナリ

性法ノ點ヨリ之ヲ視ルルハ其實人類ハ全一ノ生ヲ稟

ケ得タルモノニテ固ヨリ彼我尊卑ノ別アルヘキノ理  
無シ然レトモ此理ヤ永久ニ保續ス可キモノニアラス  
人民ノ社會開通スルニ及ンテハ之ヲ放擲セサルヲ得  
サルノ勢アリ故ニ之ヲ回復スルハ唯法律ノ保護ニ依  
賴スルニアルノミ

民主政ニ於テ綱紀善ク整フタル者ト否ラサル者トノ  
差別ハ其整フタル者ニ在テハ人民ハ唯タ國民タルノ  
今限上ニ於テノミ彼此全一ノ位地ヲ占ムルニ在リ否  
ラサルモノニ在テハ之ニ反シテ庶民ニシテ宰官元老  
法官ト全一タランヲ欲シ妻子從僕ニシテ其夫其父  
其主人ト全一タランヲ欲スルニ在ルナリ

懿德ノ固有タル地位ハ固ヨリ自由權ニ接近スト雖モ自由權ノ其度ヲ過キタルモノト服從ノ義トニ對シテ其何レニ庶幾スルカト問フハ則チ懿德ハ寧ロ服從ノ義ニ近クシテ自由權ノソノ度ヲ過キタルモノニ遠シト謂サルヲ得ス

#### 第四回 人民ノ頽壞ヒル特因ヲ論ス

非常ノ事業成達シ而モ其勲勞ハ專ラ人民ニ属スルモノ居多ナランカ人民ハ自ラ之ニ酩酊シテ專恣傲慢ニ流レ之ヲ制御シテ其範圍ニ止ラシムルヲ能ハス其初ハ宰官人物ヲ猜忌スルモ後ニハ宰官ノ職ヲ猜忌シ其初ハ治御當路ノ官吏ヲ仇視スルモ終ニハ治御ノ原タ

ル國憲ニ對シテ之ヲ仇視スルニ至リ遂ニ雅典ハサラミス峽ノ一戰於テ波斯ノ大軍ヲ擊破シ其大捷ハ即チ以テ共和政ヲ頽壞スルノ原因ト為レリ又西拉仇斯ノ共和政ハ雅典ニ克テ自ラ其滅亡ヲ促セリ

馮塞里ノ共和政ハ夫ノ一朝至小ノ位地ヲ轉シテ至大ノ位地ニ至ルカ如キ事業アルヲ無シ是レ此政治ノ治術ハ專ラ謹慎ヲ主トシテ常ニ元氣ヲ固守シテ失ハサルニ由リ

#### 第五回 貴族政ノ元氣ノ頽壞セルヲ論ス

若シ貴族政ニシテ治者被治者交其懿德ヲ失フハ貴族ノ權忽チ増長シテ專恣ニ移リ其政乃チ頽壞スルモ

ノナリ

若シ執權ノ數族能ク法律ヲ遵守スルキハ則チ多頭ノ立君政ト為ル抑モ此政治ハ君主ノ數一人ニアラスシテ各自法律ニ檢束セラル、カ故ニ其性至テ善美ナリ然レバ若シ執權ノ數族ニシテ法律ヲ遵守セサルキハ其情恰モ專制國ニシテ無數ノ君主ヲ奉戴スルカ如キモノアリ

執權ノ數族果シテ法律ヲ遵守セサル時ハ人民ヲ統治スル處ノ貴族ハ即チ共和政ヲ表シ在下ノ人民ハ專制ノ政ヲ仰キ共和ノ外形ハ唯貴顯ノ一族ニ止リ其實ハ世界中ニテ最モ反對セル二様ノ政体ヲ合併スルモノ

ト為ルナリ

貴族ノ權若シ因循シテ世襲ノモノト為ル時ハ

此貴族政ハ變

政トナル謹度約束等ノ存スルヤ殆ト絶無ニ庶幾シ之ヲ此政治ノ頽壞セル極度ト為ス若シ又貴族ノ負數甚タ多カラサレハ其權ハ愈大ニシテ而シテ其身ノ安全ハ愈危シ若シ又其負數衆多ナルキハ其權ハ從テ輕小ナレバ其身ノ安全ハ愈堅固ナリ斯ノ如ク下ハ執權ノ貴族ヨリ上ハ專斷無限ノ君主ニ至ルマテ權威ノ增長スルニ從テ其身ノ安全ハ愈減殺シ權威ノ極マル處即チ危險ノ聚マル處ト為ル

是故ニ世襲貴族ノ政府ハ治者ノ負數益衆多ナルニ從

テ其政ハ益寛和ニ接近セン然レ此貴族政ハ懿德ヲ  
具有スルヲ許多ナラサルヲ以テ其弊ヤ怠慢ニ流レテ  
氣力振ハス終ニ國力ノ萎靡衰耗スルヲ免ル能ハス共  
政ノ中ニテ法律ヲ制シテ世襲貴族ノ弊ヲ矯  
正シタルモノハ伯尼西ヲ以テ其最ト為ス  
若シ能ク貴族ノ心思ヲ感動シソノ政權ヲ掌握スルニ  
方リ之ニ由テ得ル所ノ快樂ハ之ニ由リテ受ル所ノ危  
險ノ多キニ若カサルヲ覺知セシムルニ足ルヘキ法  
律ヲ制定シ而シテ政府ノ形勢タル内ハ之ヲ保守セサ  
レハ安固ヲ得ルヲ能ハス外ハ未定不穩ノ事アリテ恃  
ムニ足ラス廟堂常ニ恐懼スル處アリテ恬熙ニ暇マア  
ラサルカ如ク其心ヲ省警悚動スル時ハ其治圖ヲ敷ク

ヤ能ク其國憲ヲ維持シ能ク其國勢ヲ擴張スル乃チ疑  
ヒ無ラン

立君政ニハ一種ノ信任依頼ス可キモノアリテ其光榮  
ト為リ又其堅固ヲ致ス之ニ反シテ共和政ニハ必ス他  
ニ恐懼ス可キ一物ナカル可ラス  
ノ死ヲ以テ雅典人ノ德ヲ失ノタル原因ニ歸ヤリエバ  
ミノ財ヲタス已ニ没レテヨリ國民ハ競爭勉強ノ力ヲ失  
行スルカ如キニ至レリ希臘人ノ能ク其法律ニ率由  
セシハ波斯ノ勁敵ノ恐懼スヘキアリレニ由レリ又羅  
馬ト加耳他治トノ二國ハ海ヲ隔テ峙立シ互ニ戒嚴シ  
テ各其國勢ヲ增長セリ然レ此二國ノ如キハ鞏固ノ  
增長セルニ從ヒ却テ頽壞ノ厄運ニ推移セリ是猶ホ水

流ノ滙滯レテ發洩ノ路ヲ失シ終ニ腐敗ニ歸セシカ如  
レ亦史中ノ一奇事ナリ

第六回 立君政ノ元氣ノ頽壞セルヲ論ス

民主政ノ傾覆スルハ人民ニテ元老宰官法官ノ職掌ヲ  
僭奪レ親ラ其政務ヲ執行スルノ時ニ在リ之ニ比シク  
立君政ノ頽壞スルハ君主タル者知ラス識ラスレテ社  
會ノ特典ヲ奪ヒ府邑ノ殊權ヲ褫クノ時ニ在リトス之  
ヲ要スルニ民主政ハ民庶ニ政權ヲ篡奪セラレテ頽壞  
シ立君政ハ君主一人ニ収攬セラレテ衰滅スルナリ  
支那ノ學士言ヘルヲアリ陳隋二朝ノ滅亡セシハ他ナ  
シ其君祖宗ノ成典ニ則トリ人君ノ德ヲ修メテ恭默端

拱シ唯其大体ヲ監理スルニ在ルヲ知ラス親ラ萬機ヲ  
収攬セント欲セシニ原由セリト此言ハ以テ其餘ノ立  
君政ノ頽壞セル原因ヲ罄スニ足レリ

若シ君主ノ思慮ハ當時ノ事物ノ秩序ニ順從セスレテ  
唯之カ變革ノミニ從事レ臣僚世襲ノ官職ヲ剥奪レテ  
之ヲ已カ寵幸スル處ノ人ニ賜與シ而メ政機ヲ運轉ス  
ルニ事物ノ理非ニ頼ルヲ無ク好テ一時ノ空想ニ誘導  
セラル、片ハ佞令勵精治ヲ圖ルト雖モ其政ハ忽チ滅  
絶ニ就クモノナリ

又君主親ラ萬機ヲ裁決シ一國ノ事ヲ舉テ輦下ニ集メ  
輦下ノ事ヲ宮中ニ集メ宮中ノ事ヲ一身ニ集ムルカ如

キニ至レハ立君ノ政ハ忽チ滅絶ニ就クナリ  
之ヲ要スルニ君主タルモノ其權威位地及ヒ人民ノ愛  
敬ヲ濫用シ而メ其身ノ安全ナルハ恰モ專制ノ君ノ危  
險ナルカ如キモノアルヲ忘却スル片ハ立君ノ政ハ忽  
チ滅絶ニ就クナリ

第七回 同上

一國舉テ具瞻スル處ノ尊爵榮譽ハ陵夷レテ賤劣汚辱  
ノ記標ト為リ而メ大人君子ハ已ニ人民ニ尊敬セラル  
、一無ク徒ニ暴君ノ玩弄物タルニ過キサル片ハ立君  
政ノ元氣忽チ頽壞スルモノナリ  
若シ夫レ名譽ヲ視テ其實ニ反對スルモノト為シ而ノ

全一ノ人民ヲシテ一時ニ羞辱ト榮譽トヲ兼有セシム  
ルカ如キニ至ル時ハ頽壞ノ勢更ニ甚シキモノアリ  
チベリエス帝ノ治世ニ方テハ告發者ノ為メニ偶像ヲ  
彫刺シ凱旋門ヲ建テタリ是ヨリ人民ハ名譽ヲ視テ汚  
辱ノモノト為シ真ニ功績アルモノハ  
之ヲ受ルヲ屑シトセサルニ至レリ  
若シ君主刑辟ノ和平ナルヲ改革シテ之ヲ嚴酷ト為シ  
羅馬帝ノメデユサー按報復ノ司ノ像ヲ將テ其胸ニ懸  
ケ或ハコモデユス帝ノ其偶像ヲ彫刻スルニ方テ勉メ  
テ其形容ヲ穢惡ナラシメ之ヲ望シテ恐懼ノ心ヲ起サ  
シムルカ如キニ至レハ立君ノ政亦忽チ頽壞スルモノ  
ナリ

斗筭ノ小人アリ足恭諂媚ニ伏リ富貴ヲ釣致シテ揚々



自得ノ意アリ而メ滿腔ノ志趣ハ唯君主ヲ奉承スルニ在ルノミ更ニ國家ニ對シテ義務ヲ負荷スルヲ忘却スルニ至ツテハ是亦立君ノ政忽チ頽壞スルモノナリ君主ノ威權愈增長シ渺乎トシテ際涯無キニ至レハ從テ君位ノ安全鞏固ハ愈減殺シテ危殆ノモノト為ルノミ其蹟ヤ歴々トシテ古今ノ史乘ニ徵スヘシ若シ此事ヲシテ真理アルモノト為サハ則チ苟モ臣民ニシテ君主ノ威權ヲ弄用シ政体ノ真性ヲ改革セシムルカ如キ行狀アルハ此政ニ於テ之ヲ君主ニ對シテ謀反大逆ヲ犯スノ大罪ナリト看ルモ敢テ不可ナルヲナカラン

第八回 立君政ノ元氣ノ頽壞スル危險ヲ論ス

共和政變シテ立君ノ政ト為リ或ハ立君政變シテ共和政ト為ルカ如クソノ變スル者モ變セラル、者モ俱ニ寛和ノ政体ナレハ敢テ危險トスルニ足ラス唯恐ル、虞ハ寛和ノ政一朝ニ變動シテ專暴ト為ルキニアリ歐洲ノ諸邦ハ概チ道義ノカニ仗テ人民ヲ治ムルモノ今日尚ホ十ノ八九ニ居レリ然レモ若シ君權ヲ弄用シテ久ニ過キ或ハ霸者興テ戰勝ノ勢ヲ逞シ之ニ因ニ專恣ノ政ニ流ル時ハ道義ノ力風土ノ異ナルアリトモ其氣燄ニ抗敵シ能ハサルハ必然ナリ人類ノ命運其極ニ到ルハ宇内ニ勝レタル此良上按歐羅巴ニ生息スルモノソノ凌辱ヲ蒙ルニ至テハ將タ他ノ三大洲ニ於ル奴

隸ノ如ク然ラサルヲ得サル可シ

第九回 貴族ハ甘シテ王位ヲ扞禦スルモノナ

ルヲ論ス

英國ノ貴族ハ其身ヲ竭シテ查理王第一世ト俱ニ王室ノ顛覆ニ徇セリ又先是佛王非立第二世ハ英國ノ内亂ニ乘シ自由權ヲ餌ニシテ佛國ノ人民ヲ利誘シ以テ英國ノ邊土ニ侵入シタリ然レモ英國ノ貴族ハ專ラ君主ヲ翼戴スルヲ以テ其名譽ト者做シ人民ニ與レテ俱ニ政權ヲ執ルヲ以テ無二ノ耻辱ト者做セシナリ  
澳太利ノ皇室ハ勉メテ匈牙利ノ貴族ヲ壓抑シ曾テ他日大ニ是等貴族ノ功勞ニ依テ其冠冕ヲ保續スヘキノ

前見ヲク國土ノ貧富ヲ測ラスニテ漫ニ錢糧ヲ收歛シ毫モノ民多クレテ食足ラサルニ注意セサリシヲアリ於茲有土ノ王侯ハ皇室ノ暴政ヲ憤リ衆力ヲ糾合シテ起リ以テ皇土ニ割據シ州郡靡然トシテ之ニ響應シ一國ノ大勢已ニ去リテ復タ挽回ス可ラサル者ノ如シ此時ニ方テ國中一人ノ勤王ヲ唱フルモノアラス唯貴族ノニ其氣力ヲ失スルヲ無ク王侯ノ皇室ニ反亂スルヲ慷慨シ直ニ義兵ヲ舉テ皇室ヲ護衛シ聊カ舊怨ヲ挾マサリシナリ是レ蓋シ貴族ハ已カ死ヲ恐レス人ノ舊惡ヲ念ハス勇戰其命ヲ致スヲ以テ無上ノ名譽ト為セシカ故ナリ

第十回 專制ノ元氣ノ頽壞ヲ論ス

專制政ハ其本性已ニ頽壞セルモノニテ若シ少シク其元氣ノ防キ能ハサル時ハ固有ノ虧缺ノ為ニ忽チ覆亡ノ禍ヲ招クヘシ其餘ノ政府ハ否ラス若シ不測ノ事變起テ大ニ其元氣ヲ傷害スルニ至ラサレハ政体凋衰ノ患ナキナリ然ルニ專制政ト雖モ秩序ヲ紊サス規則ヲ履行シ得ル事ナキニアラサルハ唯其風土教法位地或ハ人民ノ美質ヨリ發生スル處ノ情實ニ依頼スルニ在ルノミ其政体ヲ變革セスシテ政令ヲ舉行シ威勢ヲ保存シ一時之ヲ調和寛厚ナラシムルヲ得ルハ全ク此數事ノ力ナリ

第十一回

政府ノ元氣ノ善惡ニヨリ生スル處ノ

効果ヲ論ス

政府ノ元氣一タヒ頽壞スル時ハ至善ノ法律變シテ至惡ノモノト為リ適マ以テ國家ノ禍害ヲ資クルニ足ル之ニ反シテ元氣強壯ナル時ハ法律ノ至惡ナルモノモ其効果ハ更ニ至善ナルモノニ異ナラス各事各物皆ナ其元氣ニ鼓盪セラレテ祥瑞嘉兆ニアラサルハ無シクレイトノ居民ハ實ニ怪異ナル方策ヲ用ヒテ以大吏ヲ檢束シ憲典ヲ遵守セシメタリ其方策トハ何ソヤ人民ノ叛逆是レナリ若シ大吏其權ヲ擅ニシテ憲典ニ背戾スル時ハ國民兵力ニ伏テ其罪ヲ鳴ラシ其官ヲ褫

フテ乃チ止ム蓋シ國民ノ此舉ニ及フハ固ヨリ國法ノ  
因テ然ラシムルモノナリト雖モ其國憲ニ於テ官吏ノ  
專横ヲ抑制セシカ為メニ人民ヲ教唆シテ反亂ヲ企テ  
シムヘキ方策ヲ公認スルカ如キハ實ニ共和政ヲ顛覆  
スルナキヲ欲スルモ得可カラサルモノ、如シ然ル  
ニクレートニ於テハ曾テ之カ為メ政体ヲ傷害セシ  
ヲ見ス其然ル所以ハ下文ノ理ニ外ナラサルナリ、官民  
互ニ相聞クト雖モ一旦外寇ニ逢ヘ  
ハ忽チ協和シテ其國ヲ扞禦セリ  
古來愛國ノ情極メテ深キモノヲ説クニハ必スクレ  
ートノ人民ヲ舉テ其證ト為セリプラトールノ書ニモ我國  
トハクレート人ノ最モ貴重セシ處ノモノナリト記セ

リ實ニクレート人ハ其國ノ名ヲ以テ母ノ其子ヲ愛ス  
ルノ情ト全義ト為スニ至レリ唯此愛國ノ情ノ深キア  
ルニ依テ一國ノ舉措一トシテ其當ヲ得サルハアサ  
ルナリ

波蘭ノ法律ニモ亦人民ニ反亂ノ舉アルヲ掲載セリ然  
レモ此國ニ於テハ許多ノ禍害ヲ釀成スルヲ免レス因  
テ知ル此救急ノ權道ハ唯クレート人ニノミ之ヲ用ヒ  
テ其效ヲ得ヘキヲ

希臘ニ設立シタル体術ノ演習ハ其國民ノ為メニ政府  
ノ元氣ヲ培養シテ大效アリシト夫ノ權道ノクレート  
人ニ於ケルカ如シプラトール曰ク著名ナル教場ヲ開キ

テ字内卓絶ノ人民ヲ鑄造セシハ希臘人クレイト人ニ  
属セリト蓋シプラトノ時ニ在テハ此教場ニ於テ武  
技ヲ操演シ一國ノ舉テ目的トスル處ニ從事セシヲ以  
テ其制甚タ懿美ナルモノニシテ即チ其始メ貞節ノ道  
ニ缺ク處アリテ頗ル物議アリシモ爰ニ至テ公利公益  
ノ為メ之ヲ顧ミルニ違アラサルニ至レリ希臘人ノ體  
及角觥ノ二科ニ分チタリクレイトニハキユレツトノ舞  
武舞アリテ斷ニバル達ニハカストル及ホルツキスノ舞  
蹈アリテ雅典ニハバルタスノ武舞アリ未タ戰陣ニ出テ  
サル少年ノ為メニハ甚タ有益ノ演習ナリ又プラトノ  
戰ノ演習ト見ヘタリ然レモ懿德一タビ希臘人ノ  
心腔ヲ脱シ去ルニ及ンテハ武技ノ演習却テ此教場ノ  
為メニ怠荒セラレ人民爰ニ會スルハ其身心ヲ脩養ス

ルニアラスシテ淫蕩佚樂ヲ逞フスルニアリシナリ  
プルタルキ當時ノ羅馬人ノ輿論ヲ援テ希臘ノ人民頽  
壞シテ奴隸習ニ陥リシハ全ク此体操術ニ淵源セリト  
言ヒシハ未タ以テ信據トスルニ足ラス抑モ希臘人ノ  
頽壞セシハ人心先ツ頽壞シテ而シテ後チ体操頽壞セ  
シニテ決シテ體操ノ人心ヲ頽壞セシニアラサルナリ  
蓋シ當時人民ノ遊苑ニ集會セルモノハ裸體ニシテ角  
觥レ其習俗ハ少年ノ志氣ヲシテ卑怯懦弱ナラシメ以  
テ淫蕩ノ念ヲ誘掖シ以テ一個ノ俳優ヲ鑄出スルニ過  
キサルナリ然レモエパミノーダスノ時ニ於テハ角觥  
ノ演習尚オ未タ其効ヲ虛シフセステバン人ヲシテリ

ユクターノ戦ニ捷チ大ニ英名ヲ揚ケシメタリ  
國家ノ元氣強盛ナルニ方テハ其法律ノ中善良ナラサ  
ルモノアルハ殆ント稀ナリ爰ニエビキユルスノ富ヲ  
論シタル言ヲ舉テ之ヲ証セン曰ク腐敗ヲ催スモノハ  
飲液（按）法ニアラス唯之ヲ盛ル處ノ器皿（按）國家ニアリ  
ト

第十二回 同上

羅馬ノ國初ニ於テハ例シテ元老院ノ議貢中ヨリ法官  
ヲ選拔シタリグラキ一姓ノ諸統領ハ此特典ヲナイト  
有爵ノニ賜與シドルレユスハ之ヲ元老院ノ議貢トナ  
イトトノ其有ト為シレルラーハ復タ之ヲ元老院ノミ

ニ賜與スコツターハ又元老院ナイト及司計官ニ分賜  
シ諛撒ハ司計官ニ與フルヲ廢シアントニ一ハ元老院  
ノ十長及ナイト及百夫長ヨリ撰拔シタリ  
共和ノ政一タヒ式微ニ傾クニ及ンテハ夫ノ頽壞セル  
原因ヲ排除シ元氣ノ失墜セルモノヲ恢復スルノ外其  
弊害ヲ治療スヘキ方策アル可ラス之ヲ措キテ他ニ匡  
救ノ術ヲ求ムルハ當ニ其效ヲ得サルノミナラス或ハ  
以テ新ニ弊害ヲ招クノ患アリ○羅馬ノ政其元氣充實  
スルニ方テハ國法ノ大權ヲ舉テ元老院ニ委任セシモ  
曾テ其弊ヲ見サリシナリ然レハ綱紀一タヒ弛ミシヤ  
其邪惡ヲ匡救スルニ汲々タル或ハ之ヲ元老院ニ托シ

又ナイトニ托シ司計官ニ托シ或ハ二局ニ共任セシメ  
或ハ三局ニ分擔セシムルモ徒ニ皮膚ノ改革タルニ過  
キス其弊害ハ依然トシテ滅絶セサルナリ蓋シナイト  
ノ懿德ハ元老院ニ優リタルニアラス司計官ノ操守ハ  
ナイトニ勝レタルニアラスナイトハ必スレモ百夫長  
ノ上ニアラス必竟同一ノ人品ニシテ邪ヲ以テ邪ニ易  
ヘタレハナリ

羅馬ノ平民始メテ貴族ト俱ニ宰官ノ職ニ關與ス可キ  
殊典ヲ得タリシ時ニ方テハ唯人民ノ歡心ヲ買得セシ  
モノ皆拔擢セラレテ其職ニ就キ直ニ一國ノ政事ヲ號  
令スヘシト思想セシナル可レ是レ固ヨリ人情ノ然ル

ハキ處ガリ然レバ實際ノ舉措ヲ見ルニ決シテ然ルニ  
アラスカノ曾テ民權ヲ擴張シ平民ヲシテ國家ノ大吏  
ニ任セシムヘキ資格ヲ占得セシ者ト雖モ選舉ノ時ニ  
方テハ必ス其票ヲ貴族ニ投シタリ是レ他ナシ人民懿  
德ヲ有レ胸襟寛厚ニシテ而モ自主權ヲ好ムト雖モ曾  
テ親ラ政權ヲ玩弄スルヲ好マサリシニ由レリ然ルニ  
道義ノ頽壞セルニ及ンテハ其政權ヲ玩弄スルヤ益甚  
シク從テ翼々ノ心ハ益渙散シテ自ラ暴政ノ主宰ト為  
リ自ラ奴隸ノ境界ニ陥リ專恣暴謾至ラサル處ナク終  
ニ自主ノ權ト俱ニ其國ヲ傾覆セリ

第十三回 有德ノ人民ニ誓詞ノ效用最モ著レキ



ヲ論ス

李維曰ク悠久ニ亘テ頽壞セサルモノハ獨リ羅馬ノ國  
民アルノミト蓋シ羅馬ノ人民タルヤ數世ノ間能ク謹  
度節制ヲ守リ貧賤ヲ凌辱セサルカ如キハ他ニ於テ未  
タ曾テ之ヲ見サルナリ

人民ヲ約束シテ法律ヲ確守セシムルニハ若シ誓詞ヲ  
除テ又效用ノ之ヨリ著シキモノアルヲ見ス羅馬人ノ  
其誓詞ヲ履踐センカ為メ成シ得タル事業ヲ替フルニ  
榮譽ヲ好ムノ熱心若クハ國家ヲ愛スル至情ニ出シモ  
ノヨリモ一層偉烈ナルモノ之アリ

ク井ントユス、レンシンナトユス羅馬ノ統領職ニ在リ

レ時イーク井ー及フオルレノ府邑ヲ征伐セシヲ  
企テ府内ニ於テ兵卒ヲ召募セント欲セリ然ルニ大法  
官之ニ左祖セスレテ其舉ヲ抑止ス因テ檄フ府内ニ傳  
ヘテ曰ク汝衆庶ヨ若シ昨年ノ統領ニ誓約ヲ為セシ者  
アラハ宜シク我カ麾下ニ從テ我カ指揮ヲ仰クヘシト  
大法官之ヲ聞テ謂ラク夫ノ誓約ハ舊任ノ統領ニ對シ  
テ為セシモノニテ當時ク井ントユスハ未タ其職ニ就  
カス故ニ今日其人ニ對シテ更ニ約束ヲ果スヘキノ義  
務無シト反覆其事ヲ辯解シタリ然レモ人民皆ナク井  
ントユスニ服從シ肯テ大法官ノ言ヲ聞クモノナレ蓋  
シ羅馬ノ人民ハ神明ヲ敬虔スルヲ極メテ深ク其誠意

ハ迥カニ在上ノ人ニ勝レリ故ニ大法官ノ分疏ヲ聞カ  
ス變通ノ言ニ從ハサリシナリ  
又人民退キテ神陵サクレットヲ守ラント欲シタリシ  
時曾テ統領ニ戰場ニ從ヘキ誓詞アリシヲ回顧シ良心  
怛怛トシテ竟ニ其舉ヲ果サス此時又統領ヲ殺サント  
ノ謀略ニ決シタリ然レモ其人ハ死スルモ誓詞ハ尚存  
スルヲ以テ斷然其約束ヲ踐守スヘキヲ覺悟シテ其志  
ヲ遂ゲサルヤ再ビニ及ヘリ○羅馬ノ人民斯ク罪惡ヲ  
犯サントセシ一已ニ數回ニ及ヘモ終ニ之ヲ決行セサ  
ルヲ得シモノ他ナシ唯誓詞ヲ確守シテ動カサリシニ  
在ルノミ以テ古人誠意ノ深キヲ見ル可シ

カンニ一按加耳他日ノ良將ハシニ大敗ノ後羅馬ノ人  
民ハ驚悸措ク處ナク國ヲ舉テ西々里寫ニ退去セン  
ヲ謀レリ於是上將シ、ピオハ人民ヲ諭シテ一步モ羅  
馬ヲ退カサルノ誓詞ヲ為サシメタリ唯此誓詞ヲ破ラ  
サラン一ヲ欲スルノ一心大ニ氣力ヲ振作シテ大敵ノ  
境上ヲ壓スルヲモ恐レサルニ至レリ羅馬ハ恰モ船舶  
ノ狂瀾怒濤ノ中ニ在リテ教法ト道義ノカトニ頼テ錨  
碇ト為シ以テ其漂蕩スルヲ支ヘシニ似タリ

第十四回 憲法ノ改革ハ至微ナルモノト雖モ動  
モスレハ一國ノ元氣ヲ頽壞スヘキモ  
ノナルヲ論ス

アリストートルハ加耳他日ヲ以テ能ク治術ヲ得タルノ共和政ト為セリポリヒュース（按アリストートルニ後ル、一九一十年ポニツクノ第二役羅馬トノ不利ナリシ原因ハ元老院殆ント其威權ヲ失セシニ依レリト云ヘリ李維ニ據レハ第二役ノ時ハシニバル戰場ヨリ歸國セシニ宰官ト國民ノ巨擘タル者ト因縁奸ヲ為シ交威權ヲ弄シ公帑ヲ濫用シテ私門ニ貨殖スルカ如キ惡弊頻リニ行ハレ宰官ノ懿德ト元老院ノ威權トハ全時ニ失墜シテ萬策救ノ可ラサルニ至レリ

羅馬ノ監察官ヲ置キシヤ時トシテハ人民ソノ煩苛ニ苦シムトアリシモ驚クヘキ效驗ヲ得シハ吾人ノ能ク

知ル所ナリ蓋シ當時人民ノ流弊ハ奢侈ニ傾靡スルニ在テ元氣ノ頹壞セシニ在ラサルヲ以テ監察ノ官其職掌ヲ墜サ、リシナリクラウデ井ユス帝ニ至リ其檢束ノ權ヲ削弱セシヨリ人民ノ元氣忽チ頹壞シテ其害ハ奢侈ニ超過シ而メ此官亦從テ衰微シ終ニアラグストスクラチデユスノ治世ニ至リ全ク弁髦ト為テ止メリ

第十五回 三政治ノ元氣ヲ保持スルノ良策

看客此回ノ題旨ヲ了解センニハ先ツ以下ノ四回ヲ通覽スル後ニアラサレハ能ハサルヘシ

第十六回 共和政治獨有ノ性質

共和ノ邦ハ版圖ノ狹少ナルヲ以テ事理ノ當ヲ得ルモ

ノトス然ラサレハ國祚ヲ悠久ニ保持シ難シ蓋シ封疆廣大ナルハ國民ノ中必ス非常ノ富ヲ有スルモノアリテ自ラ節制謹度ノ畛域ヲ踰ヘ或ハ國事ノ擔任漸ク重大ニシテ之ヲ一人ニ托シ難シ而メ若シ之ヲ托スレハ乃チ擔任ノモノ一己ノ利益ニ誘掖セラレ忽チ全胞ノ國民ヲ壓制シ以テ己カ一身ノ福利尊榮ヲ逞フセントス斯ル念頭一タヒ其心ニ發動スル時ハ自ラ一人ノ雄圖ヲ達センカ為メ國家ノ滅亡ヲ釀シテ敢テ顧ミサルニ至ルヘキナリ

共和政ノ大ナル者ニ於テハ公利公安ヲ損害スヘキ情實無慮百千ニシテ或ハ變例ニ從ハサル可ラス又偶然

ノ事ニ依ラサル可ラサルモノアリ之ニ反シテ其小ナル者ニ於テハ人民ノ利害ヲ覺知スルヲ明白ニシテ之ヲ理解スル亦詳悉ヲ得ヘシ且各人自ラ之ニ參與スルヲ以テ弊害ノ及フ處廣大ナラス從テ之ヲ曲庇隱容スルヲ亦容易ナラサルナリ

斯バル達ノ能ク共和政ヲ長久ニ保チテ失墜セザリシモノハ百戰百勝ノ勢アリシモ敢テ其版圖ヲ擴張セザリシニ依レリ且ツ斯バル達ノ專ラ前途ノ目的トナセシハ自由權ヲ暢達スルニ在リ而メ自由權ノ利益ハ全ク一國ノ榮譽ヲ光揚スルニアリ

希臘ノ共和諸邦ハ固有ノ封疆ヲ固守シ敢テ攻畧ニ從

事セサリシ一猶才其法律ヲ遵守シテ變セサリシカ如  
シ是レ其國風ナリ○諸邦ノ中ニテ雄畧遠圖ノ志ヲ懷  
キシハ雅典ヲ以テ嚆矢トシ羅西頓其志ヲ繼キタリ然  
レ氏ソノ雄畧遠圖ハ唯自主ノ人民ヲ制御スルヲ好シ  
テ奴隸ヲ使役スルヲ好マス聯合ノ盟ヲ破テ獨立セン  
ヨリモ之カ盟主タラン一ヲ好ミタリ立君ノ政府ハ之  
ニ反シテ專ラ封域ヲ開拓スルニ在ルヲ以テ希臘ノ共  
和政モソノ体裁立君ノ狀ヲ為スニ至テソノ氣風全ク  
變動セリ

特別ノ事情

譬ハハ小國ノ君主兩強國ノ間ニ介在シテ  
其獨立ヲ保テ得ルハ強國ノ甲乙互ニ相軋  
テ一致セサルニ頼ルカ如キヲ云フ但シ此ノ如キ存  
立ハ朝夕ヲ保タサルモノニテ一定ノモノニアラス之

アルノ外ハ一府一邑ヲ以テ永ク其獨立ヲ保タント欲  
スルハ共和ノ政体ニアラサレハ能ハス蓋シ小國ノ君  
主ノ威權ハソノ之ヲ享用シ或ハ他ヲシテ尊敬セシム  
ルカ如キニ至テハ固ヨリ微弱ナリト雖モ其治下ノ臣  
民ニ臨ンテハ甚々強大ト為ル故ニ必ス之ヲ以テ暴政  
ノ具ト為レ終ニハ其民ヲ殘虐セサレハ正マサルナリ  
又他ノ一點ヨリ論スレハ如斯小國ノ君主ハ常ニ外寇  
ノ魚肉トナリ或ハ臣民揭竿シテ反亂ヲ圖リ易キノ患  
アリ是レ一地一邑ノ君主其城邑ヲ出奔スルハ爭亂忽  
チ止ムヘント雖モ若シ其治下數城數邑ニ亘ルモノハ  
一城一邑ノ覆没ヲ以テ將ニ擾亂ノ端緒ヲ開クモノト

スル所以ナリ

第十七回 立君國獨有ノ性質

立君ノ邦國ハ其疆域ノ廣袤宜レク中庸ヲ得ヘク大ニ過ク可ラス亦小ニ過ク可ラス蓋シ小ニ過クルハ共和政ニ變スルノ患アリ大ニ過クルハ必ス君主ノ聰明及ハサル處アツテ其公伯ノ巨封ニ食ム者之ニ割據シ各自小朝廷ノ体裁ヲナシテ遂ニ國法國制ニ從ハス所謂尾大不掉ニ至ルモ之ヲ奈何トモ為ス可ラス是レ他ナレズ如キ巨封ノ公伯ハ輦轂ノ下ヲ距ルヲ已ニ遠ク刑罰ノ到ルヲ亦神速ナラサルヲ以テ終ニハ勤王ノ大義ヲ抛却スヘキナリ

故ニチヤルレマン帝ハ寰宇ヲ經營シテ大統已ニ成ルヤ忽チ之ヲ分裂セリ是レ版圖廣大ニシテ遠地ノ守牧其政令ニ從ハサリレニ因レルカ將々守牧ヲ制馭シテ治功ノ著シキヲ得シニハ之ヲ割テ數個ノ王國ト為スニ若カストノ謨猷ニ因レルカ其情得テ知ル可カラスト雖モ抑モ之ヲ分裂セサルヲ得サルノ勢アリレハ必ス疑團ヲ容レサルナリ

歷山帝崩殂セルヤカノ大帝國忽チ今崩割裂シタリ是レ他ナシソノ治内ニ在ル處ノ希臘馬塞頓ノ酋長各自不羈獨立ノ氣象アリテ而モ麾下ノ將帥ハ各戰勝ノ兵ヲ率テ新畧ノ土地ニ屯戍セリ此等ヲレテ常ニ軌輅ニ

馴伏セシメント欲スルハ決シテ能ハサルモノアレハナリ

亞帝<sup>匈奴ノ酋長</sup>辣<sup>ハチイラ</sup>ノ帝國ニ於ルモ其死後幾クナラスシテ其紐ヲ解キタリ是レ亦全盛ノ時ニ方テハ數十ノ王侯能ク其節ヲ屈シテ臣ト稱セシモ其人已ニ没スレハ不羈ノ勢舊ニ復スレハナリ

若レ一朝ニシテ無限ノ威權ヲ一人ニ委任スル時ハ或ハ大國ノ瓦解ニ垂ントスルノ頽勢ニ於テ之ヲ挽回スルノ權畧ト為ルヘシ然レモ大權一人ノ掌握ニ歸スルハ即チ以テ新タニ帝國ヲ創立スルモノニテ之カ為メ人民ノ酸辛ヲ嘗ムル幾多ナルヤ問ハスレテ明カナリ

江河ノ水ハ常ニ下ニ注キテ海瀛ニ歸シ立君ノ政ハ知ラス識ラス專制ニ陥リテ滅亡ヲ促カス

### 第十八回 西班牙王國ノ情實

西班牙ノ往事ヲ簪フヘシ其蹟正ニ予カ剴論セシモノニ吻合セリ蓋シ此國ハ亞米利加ニ在ル屬地ヲ保存セシカ為メソノ居民ヲ屠殺セシテアリ其暴戾殘虐ナル實ニ專制ノ君ト雖モ亦為ニ三舍ヲ避クヘシ且ツ藩屬ノ人民ヲ壓制シテ日々ノ生計ニ困窮セシメシモ唯之ヲ保存センカ為メナリシ

涅槃<sup>ネーデルラント</sup>蘭ニ於テモ齊シク專暴ノ權ヲ逞クセント欲シタレモ其事成ラスシテ大ニ騷亂ヲ釀成シ土人種<sup>ワール</sup>ス



ハ西人ノ制御ヲ悦ハス西兵ハ土人ノ士官ニ服従スルヲ欲セス互ニ軋轢シテ竟ニ國威ノ衰頽ヲ招ケリ然ルニ伊太利ニ於テハ西國依然トシテ其土地ヲ占有セシハ抑モ所以アリ何ソヤ大ニ之ヲ失ハンコトヲ恐レテ濫ニ本國ノ貨財ヲ糜シ以テ伊人溪壑ノ欲ニ充ツレハナリ故ニ伊國ノ人心ハ皆ナ西王ノ軌輅ヲ脱スルヲ喜ハサルモノナシト雖モ亦敢テ其金貨ヲ喜ハスシテ之ヲ辭セルモノ有サリシナリ

### 第十九回 專制政獨有ノ性質

極メテ廣大ナル版圖ヲ治ムル者主君ハ獨裁ノ權威ヲ秉ルモノニシテ君主其職務ヲ瞬間ニ決斷スルハ全ク命

令ノ達スル所ノ距離ノ遠隔セルヲ縮メンカ為メナリ守令官長ヲシテ常ニ畏懼ノ心ヲ懷カシメ以テソノ怠慢苟且ニ流ル、ヲ防カンカ為メナリ法律令典ハ必ス君主一人ニ淵源シ而メ此法律令典ナルモノハ版圖ノ廣大ナルニ從テ又必ス事機ノ陸續叢生スルニ應シテ變換セシメシカ為メナリ

### 第二十回 前文ノ結意

若シ夫レ小國ハ共和ノ政ヲ為シ中國ハ立君ノ制ヲ立テ大國ハ專制ノ治体ヲ得ルヲ以テ政府獨有ノ性質ナリトスル時ハ此三政ノ元氣ヲ維持センカ為メニハ先ッ其國ノ封域ニ依テ之カ政体ヲ制定シ而メソノ増減

伸縮スルニ應シテ之ヲ更改セサルヲ得サルナリ

第二十一回 支那帝國ヲ論ス

或ハ前論ノ然ラサルヲ駁スルモノアラン故ニ今之カ  
辨解ヲ付シテ以テ此一卷ノ結尾ト為スヘシ

我カ宣教使ノ支那ニ遊ヒシ者ノ説ニ曰ク彼ノ帝國ノ  
政府ハ畏懼名譽懿德ノ三者ヲ調和シ能ク其治績ヲ奏  
シテ一点ノ瑕疵アラスト果シテ其説ノ如クナラシメ  
ハ予カ喋々トシテ政府三体ノ元氣ヲ分析セシモ殆ン  
ト無用ノ辯ニ属セントス

然レ氏鞭答ヲ以テ威サレハ一事モ為シ得ヘカラサ  
ル人民ヘド氏ノ紀行ニ云ク支那ノニ於テ名譽ト者

做スモノハ果シテ何物ヨリ成ルカ予未タ其元素ヲ探

リ得サルナリ(按名譽ハ奴隸習ノ人民ノ具  
有スルモノニアサルノ義)

然ルニ又彼國ニ渡航シタル商賈ノ説ニハ毫モ懿德ノ  
一ヲ舉クルモノナク唯官吏ノ強奪勒索ノ甚シキヲ聞  
クノミ殊ニ又アンソン伯ニ於テ疑フ可キサル証據ヲ  
得タリ

加之宣教使ペレンニンノ尺牘中ニ彼國ノ親王新タニ  
西教ニ歸依シ之カ為メニ國帝ノ怒ヲ蒙リ刑典ニ罹リ  
シト云フ事ヲ記セリ其言果シテ信ナラハ國帝ノ行為  
ハ暴君ノ恒習ニシテ血ヲ流シテ惜マス實ニ夷醜ヲ極  
メタルモノナリ

又デメーラン氏及宣教使ペレンニンノ尺牘ニカノ國  
政ノ論セシモノアリ故ニ下文ノ問答ヲ熟讀スルハ  
讀者ノ疑團自ラ氷解セン

我々宣教使ハ只治績ノ外貌ニ顯ル、者ニ欺カレテ讚  
美ノ辭ヲ下セシニアラサルハ無キ耶抑モ宣教使ハ素  
ト一人ノ教皇ヲ奉戴シテ其意之レ順從スルニ慣習シ  
而モ印度ノ諸邦ニ於テ君主ノ專權威ニ行ル、ヲ見テ  
已ニ悦喜ニ堪ヘス今又支那ニ赴キカノ政府一人ノ志  
意ヲ專行シテ之ニ逆フモノ無キヲ見テ驚嘆セルニア  
ラサルハ無キ耶固ヨリ宣教使ハ大ニ國民ヲ感化セン  
ト欲シテ其國ニ進入スルモノナルカ故ニ人民ニ論ス

ニ順從ノ義ニ限リナキヲ以テスルヨリ寧ロ君主ニ説  
キテ其權威ニ限リナキヲ知ラシムルヲ以テ其目的ノ  
達シ易キニハ如カサルヲ知得スヘキナリテハル下氏  
ノ紀行ニ或ル  
宣教使カ康熙帝ノ威權ヲ假リ以テ廷臣ノ國法ヲ固守  
シテ外國教法ノ進入ヲ聽ルス可ラスト諫諍セシ者ヲ  
壓倒セシ一  
ノ記載セリ

之ヲ要スルニ謬傳誤聞ノ中ト雖モ二三ノ實事ナキニ  
アラス然レハ則チ支那政府ノ吾人ノ忖度スルカ如ク  
頽壞セサルモノハ必ス特殊ナル情實アルニ由ルナル  
可シ或ハ風土其他形質上ノ原因ニ由リ彼ノ國民ノ道  
義ヲ感化シテ驚クヘキニ至ラシムルモ未タ知ル可ク  
ス

支那ノ風土ハ人種ヲ繁殖スルニ奇効アリテ世界中婦女ノ多孕ナルハ此國ヲ以テ其最ト為ス故ニ暴政屢行レテ人命ヲ草芥ノ如クスルモ其人口ノ繁殖ヲ止ムルヲ能ハス故ニ彼國ニ於テハ古ヘ埃及ノファロ王ノ猶太人種ヲ繁殖セサラシメンカ為テ齊兄ノ苛政ヲ布キシカ如クスルモ其効ナク唯羅馬ノ虐主子ローカ願望ヒシカ如ク人民ヲシテ唯一ノ頭腦ヲ具セシムルニ有ノミ（按一國ノ人民皆ナ君主意ニ順從スルノ謂）實ニ支那ハ風土ノ天然ニ依テ民口日ニ月ニ繁殖シテ暴君汚吏モ殆ント之ニ勝テ能ハサルナリ

支那ハ東洋諸邦ト齊シク米穀ヲ以テ其資生ノ第一物

トスルカ故ニ往々凶歉ノ災ヲ免レス若シ秋獲登ラス人民飢渴ニ苦ムルハ其食ヲ求メンカ為メ嘯集黨ヲ結ビ各處ニ蜂起シテ地方ヲ騷擾シ十ノ七八ハ其勢未ダ成ラサルニ撲滅セラレ其稍盛ナル者ト雖モ終ニ勦鋤ニ歸セサルハ無シ然レモ疆域甚ダ廣漠ニシテ化外ノ地居多ナルカ故ニ間地方ニ雄倨シ黨類ヲ集メテ軍團ヲ編制シ直ニ進テ都府ニ入り其首領ヲ推シテ帝位ヲ踐マシムルカ如キモノ無キニシモアラサルナリ  
彼國若シ政道ノ宜シキヲ失スレハ直ニ其罰ヲ蒙ムルヘキハ事實ノ當然ニ出ル者ニテ他ナレズノ如キ人口繁稠ノ國土ニ於テ人民其食ヲ得サレハ忽チ反亂ヲ生

スルカ故ナリ他ノ諸國ニ於テ惡政ヲ救防スルニ甚々  
艱難ナルハ蓋シ其禍亂ノ起ル支那ニ於ルカ如ク咫尺  
ノ前ニアラス從テ其結果モ亦著明ナラサレハナリ  
支那帝ノ訓戒ハ我カ泰西ノ君主ト其趣ヲ異ニス我カ  
君主ハ其政公平ナラサレハ現世ノ富貴ヲ失シ未來ノ  
幸福ヲ減スルノミ支那ニ於テハ然ラス直ニ社稷ト性  
命トヲ併セテ一時ニ滅亡スルニ在リ

支那ニ於テハ棄兒ノ惡習アリト雖モ其人口ハ日々繁  
殖スルカ故ニ人民ハ常ニ攷々トシテ田地ヲ耕耘セサ  
レハ以テ其食ヲ供給シ難シ政府ノ盡力注意スル處專  
ラ此一点ニ在リテ人民ヲシテ皆其勞力ヨリ所生ノ果

實ヲ得テ一人ノ敢テ之ヲ奪フモノ無イト安心セシム  
ルヲ要ス是レ彼國ノ政治ハ民權上ニ於ルヨリモ人倫  
上ニ於テ其關涉居多トル所以ナリ

夫ノ讚嘆セシ處ノ支那ノ法制モ其洙泗ニ溯レハ如斯  
ニ過キス且彼ノ政府ハ公義ノ道ト專制ノ權ヲ兩立シ  
テ治圖ヲ敷ント欲セリ然レモ天下ノ事一トシテ專制  
ノ權ニ合シテ其勢力ヲ失ハサルハナシ抑モ暴威ハ其  
性固ヨリ至善ナルモノニアラス而メ自ラ制限ヲ加ヘ  
ント欲レテ自ラ束縛ノ具ヲ携フト雖モ却テ益其虐ヲ  
極ムルモノナリ

此ニ據テ之ヲ見レハ支那ハ專制ノ國ニシテ其元氣ハ

畏懼ニ在リ太古ノ數朝其方域今日ノ如ク廣大ナラサル時ニ在テハ其政体或ハ當時ニ異ナルモノアリシナル可レ

萬法精理卷之八 畢

萬法精理卷之九

何禮之 重譯

守軍ニ關涉スル法律ヲ論ス

第一回 共和ノ邦ノ安全ヲ保ツヘキ方法如何ヲ論ス

夫レ共和ノ國タルヤ方域狹小ナレハ必ス外寇ノ為メニ攻滅セラレ若シ廣大ニ過クレハ又内亂ノ為メニ傾覆セラルヘシ

民主貴族ノ二政ハ其治圖ノ舉ルト否ラサルトニ拘ラス均シク此二様ノ不利アルヲ免レス蓋シ此不利タルヤ政体固有ノ弊ニシテ之ヲ救防スヘキ法術アルヲ無

是故ニ民主貴族ノ二政ヲ為スニハ須ラク先ツ一種ノ  
國憲ヲ制定シ以テ内ニハ共和政ノ利益ヲ保チ外ニハ  
立君國ノ勢力ヲ具備スルヲ要ス若シ然ラスンハ人情  
一人政府（按立君政）下ニアラサレハ居住シ得ヘカラサル  
ノ形勢ニ赴キ一人ノ復タ共和政ヲ顧ミルモノナキ時  
世トナランモ未タ知ルヘカラスソノ内利外力トハ何  
ソヤ數邦相聯合シテ一ノ共和政ヲ為スモノ是レナリ  
聯合ノ政府トハ數個ノ小邦盟約ヲ以テ相集リ一個ハ  
大國ヲ編制スルモノニシテ即チ二個以上ノ交社ヲ編  
制シテ一大新社ト為シ其協全ノ勢力ニ依テ以テ全部

ノ安固ヲ保護セント謀ルモノヲ謂フナリ

希臘ノ諸邦能ク其威名ヲ數世ノ久シキニ保チ得シハ  
全ク此聯合ノ力ナリ且羅馬カ能ク宇内ノ諸國ヲ征服  
シタルモ宇内ノ諸邦カ能ク羅馬ニ抗敵シタルモ亦之  
ニ依頼セサルハ無シ又羅馬ノ武威極盛ナリシ時ニ方  
テ稍其銳鋒ヲ支ヘテ封豕長蛇ノ毒ヲ逞フセシメサリ  
シハ全ク多惱河菜（ダニライ）尼河邊ノ夷蠻危急ヲ見テ盟約ヲ結  
ヒ唇齒相輔テ之ニ抗抵セシ故ナリ  
當時歐羅巴ニ於テ和蘭（五十内外ノ各異ナル）日耳曼及  
瑞西ノ諸州ヲ看テ永久ノ共和邦ト為ス所以モ其原ハ  
此ニ在ラサルハ無シ

昔時ハ彈丸黒子ノ一邑ヲ以テ決シテ其獨立ヲ保チ能ハサリレヲ以テ數個ノ府邑相集テ聯邦ト為リレハ其形勢今日ニ於ルヨリモ更ニ緊要ナリシ是レ當時其國ノ滅亡スルヤ今日ノ如ク單ニ立法行政ノ二權ヲ喪フニ止ラス人民ノ資産ヲモ併セテ失却セレヲ以テナリ資産トハ民權物貨妻子寺院墳墓等ヲ指ス此類ノ共和邦ハ其力能ク外寇ヲ防クノミナラス又内亂ヲ生スヘキ不利ヲ存セス實ニ金匱無缺ノ一社會ト謂フモ可ナリ

若シ聯合中ノ一邦ニテ無上ノ政權ヲ纂ハント欲スルモ自ラ其力量ノ自餘ノ諸邦ヲ制御スルニ足ラス若ク

ハ其尊信ヲ得能ハサルヲ顧ミテ其志ヲ遂ケス故ニ假令非常ノ勢ヲ得テ或ハ一邦ヲ籠絡シ得ルモ他ノ諸邦悉ク戒心ヲ懷キテ防備ヲ為シ或ハ一部ヲ服從セシムルモ其餘ノ獨立ヲ失セサルノ諸部競ヒ起テ抵抗シ衆寡敵セサルノ勢ニ至リ常ニ之ヲ雄圖未成ノ際ニ破ルヘシ

若シ聯合中ノ一邦人民蜂起シテ叛亂ニ及ブアルモ他ノ諸邦相會シテ之ヲ剿滅スルノ容易ナルヘシ又惡弊一邦ニ流行スルアルモ他ノ諸邦ノ未タ之ニ薰染セサルモノアツテ之ヲ矯正スル亦難カラサルヘシ故ニ聯合中ノ一部ハ滅絶ニ就クモ他ノ一部ハ依然ト



シテ其獨立ヲ保存シ且ツ聯合ノ盟約ハ破潰スル一アリト雖モ各邦ハ一モ其君權ヲ失フ一無し

此等ノ政府ハ數個ノ小共和邦ヲ集成シタルモノナルカ故ニ内治ニ就テハ各國獨立シテ其康福ヲ享ケ外事ニ就テハ聯合ノ力ニ仗テ強大ナル立君國ノ利益ヲ有スルナリ

## 第二回

聯合ノ政府

就中其体共和ニハ須ラク同

類政

體ノ諸邦ヲ以テ編制スヘキヲ論ス

カナニイト人ノ聯合

按小亞西亞即チ今ノパレスチ

ハ公其ノ防禦ヲ為ス可キ聯合盟約ヲ為スニ適セザル數個ノ立君國ヲ集成シタルカ故ニ潰裂廢頽ニ就クナリ

免レス實ニ立君ノ小國ハ其性質聯邦ニハ適應セサルモノナリ

日耳曼ノ聯合共和邦ハ自主獨立ノ府邑ト各自ノ君主ヲ戴ク處ノ小國ヨリ成ルニヨリテ其治蹟ハ迥カニ和蘭瑞西ノ共和邦ニ劣レリ是レ實驗上其明蹟アル處ナリ

立君國ノ元氣ハ武威ヲ輝シ疆土ヲ開擴スルニアリ而メ平和ヲ旨トシ謹度ヲ尚フハ共和政ノ元氣ナリ、ユノ二類ノ政体其元氣ノ同シカラサル一斯ノ如シ是レ立君國ト共和邦トハ相合シテ聯邦ト為リ能ハサル所以ナリ

羅馬ノ史ヲ見ヨウ井ント羅馬ノ一府ノ人民ハ其王ヲ撰立

セシヤ否ヤトスカニニ於ル諸ノ共和國ニ棄絶サレ

タリ○希臘ハマセドン王ヲレテ政務ニ參與セシメテ

直ニ滅亡ニ歸セリ

日耳曼ノ聯邦ハ數個ノ王侯及ヒ獨立ノ府邑ヨリ成リ

而レテ其主宰ハ或ハ聯邦ノ統領トナリ或ハ自國ノ君

主トナリテ之ヲ維持ス

### 第三回 聯邦ニ缺ク可ラサル品質ヲ論ス

和蘭ノ共和邦ニ於テハ諸州ノ承諾ヲ經スレテハ一州

ニテ聯合ノ條約ヲ結フヲ得ス此法極メテ美極メテ善

ニレテ聯邦ノ政ニ缺ク可ラサルモノナリ然ルニ日耳

曼ノ國憲ニ於テ之ヲ載セス若シ缺ク和蘭ノ制度ヲ用

ヒタランニハ一邦ノ妄動覬覦或ハ欲望ノ為メニ全國

ノ不利トナルヲ生スヘキヲ防キシナルヘシ抑モ政

務上ノ盟約ニ依テ聯合シタル共和邦ハ須ラク各事各

物皆ナ之ヲ大政府ニ致レテ一モ自ラ餘ス處ナキヲ要

ス

聯合シタル諸邦ノ版圖相同シク勢力相等シキヲ得ル

ハ萬モ得可ラサルヲナリライシヤーノ共和邦ハ二十

三個ノ府邑ノ聯合シタルモノニテ會議ノ時ニ方テ大

府ノ發言ハ三ニ當リ中府ハ二ニ當リ下府ハ一ニ當ル

和蘭ノ共和邦ハ七州ヨリ成リ各州其區域ニ大小アル

ト雖各一個ノ發言ヲ有セリ

ライシヤーノ諸府ハ發言ノ權理ノ多少ニ應シテ國費ヲ収メシメタリ然ルニ和蘭ノ諸州ノ此比例ニ從フ一能ハサリシハ全ク權力ノ強弱ヲ以テ之ヲ定メ國費ヲ以テ定メシニアラスト見ヘタリ

ライシヤーニ於テ法官及府宰ハ會議ノ時前文ノ比例ヲ以テ撰舉セリ和蘭ニ於テハ然ラス各府自ラ其宰官ヲ撰任シテ會議ハ之ニ關カラサルナリ

若シ人聯合共和政ノ師表ト為スニ此二國ノ孰レヲ以テ懿美ナルモノト問ハハ答テ曰ンライシヤーノ政体ニ若クモノナレト

#### 第四回 專制ノ政府其安全ヲ謀ル方法如何ヲ論ス

共和政ハ聯合シテ以テ其安全ヲ保ツ之ニ反シテ專制ノ國ハ孤立シテ以テ其國ヲ保護ス故ニ專制ノ政府ハ國ノ一部ヲ毀テ邊境ヲ荒ラシ人煙ヲ絶チ以テ外寇ノ内部ニ侵入スルヲ防ク

幾何學ノ規則ニ曰ク物体ノ面積ハ益大ナルモ其周圍ハ之ニ應シテ大ナラスト故ニ清野ノ法ヲ行フテ其邊境ヲ毀ツハ固ヨリ美事ニアラスト雖モ其國ノ大ナルモノニ於テハ深ク咎ム可キニアラス

專制國ノ舉措ノ暴戾ナルハ猶オ強敵ノ進撃ヲ防キ能

ハス國ヲ舉テソノ蹂躪毀壞ニ任セテ之ヲ顧ミサルカ  
如シ

其他ニ一種ノ分限法アリテ以テ其國ヲ防禦ス乃チ京  
畿ヲ距ルテ遼遠ナル州郡ヲ割テ王侯ヲ封シ以テ貢屬  
ノ邦ト為ス是レナリ蒙古人百耳西王支那帝皆チ此貢  
屬ノ王侯アリ土耳其人ノ如キハ韃靼モルダウユーヤ  
ンワラチヤン及トラシレルワンニヤン人種ヲ邊境ニ  
置キ以テ敵衝ニ當ラシメタリ

### 第五回 立君政其安全ヲ保ツ方法如何ヲ論ス

立君ノ國ハ決レテ專制ノモノ、如ク自ラ滅亡ニ就ク  
一無レ然レモ若レ其國大ナラサルハ外寇ノ侵襲ヲ

免ル能ハス是故ニ邊疆ニハ堡墩ヲ築キ戍兵ヲ分屯セシ  
メ勇斷果敢技術ヲ盡レテ以テ防禦ヲ嚴ニシ、尺寸ノ地  
ト雖モ之ヲ委棄セス金城鐵壁ノ如ク然ラシムルヲ緊  
要ナリ蓋シ專制ノ國ニ於テハ彼此相戦フアルヤ互  
ニ邊境ヲ搶掠スルニ過キスト雖モ立君ノ國ニ至テハ  
必ス正々ノ軍ヲ起レテ其雌雄ヲ決セサルヘカラサレ  
ハナリ

城堡ハ立君國ニ缺ク可ラサルノ要害ナリ、專制國ニ在  
テハ人民其君ヲ愛セス其政ヲ喜ハス從テ閭外ノ事ヲ  
托スヘキ臣民ナレ、故ニ此等ノ要害ヲ以テ却テ危險ノ  
モノトナシ大ニ之ヲ恐怖スルナリ

## 第六回 一國守兵ノ總論

凡ソ一國ヲ維持センニハ須ク先ツ外寇ノ侵入スヘキ  
道程ノ遠近ト之ヲ捍禦、擊退スヘキ遲速トヲ測テ相當  
ノ兵備アルヘキナリ而メ敵軍ハ不時ニ我カ四疆ヲ侵  
スヘキモノナルカ故ニ常ニ防守ニ備フヘキ兵勢ヲ四  
疆ニ置クヲ極メテ緊要ナリ然チ以テ國ノ廣狹ハ宜シ  
ク地理ノ遠近ニ應シテ、隊伍ヲ運動セシムルニ人類ノ  
得テ耐ユヘキ程度ト為サ、ルヘカラス

佛蘭西、西班牙ノ二國ハ齊シク恰好ノ方域ヲ有スルモ  
ノト謂フ可シ蓋シ此二國ハ軍勢ヲ進退スル為メニハ  
地利甚タ便利ニシテ即時ニ之ヲ其所欲ノ地方ニ發遣

スルヲ得タリ、且ツ此ヨリ彼ニ移スニ多時ヲ要スヘキ  
難所アルヲナク、出沒、離合、掩テ意ノ如クナラサルハ無  
シ

佛蘭西ノ京畿ノ四疆ヲ離ル、ノ位置ヲ較フルニ、邊疆  
ノ最モ危キモノニ最モ近クシテ、其最モ安全ナルモノ  
ニ最モ遠シ、且、君主ノ其邊疆ノ情形ヲ慮ルモ亦其危ク  
シテ近キモノニ密ニシテ其安全ニシテ遠キモノニ疎  
ナリ是レ一國ノ康福ト謂ハサルヲ得ス

然レ凡百兇西ノ如キ大國ニシテ一朝外寇ノ警アル時  
ハ數月ヲ經サレハ兵ヲ四方ニ募リテ軍團ヲ編制スル  
ヲ能ハス、且之ヲ編制シ得ルモ之ヲ戰地ニ達セシムル

ニハ復タ數旬ヲ費ヤサ、レハ能ハス、故ニ邊疆ニ在ル  
 戍兵ハ孤立ノ勢ニ陥リテ近傍ニ退據スヘキ要地ヲ得  
 ス、一敗直ニ潰散セサルヲ得ス、之ヲ以テ敵軍ハ勝ニ乗  
 レテ破竹ノ勢ヲ為シ、長驅席捲シテ直ニ都城ヲ圍ムヘ  
 シ都城ハ危急ニ殆スト雖モ各地ヲ距ルヲ甚タ遠キヲ  
 以テ各鎮ニ檄シテ之ヲ援ハシムルニ暇ナシ、爰ニ於テ  
 其危急ノ支ユ可ラサルヲ先見スルモノハ忽チ政府ニ  
 叛テ自立シ兵ヲ擁レテ動カス更ニ其覆滅ヲ促スナリ、  
 是レ固ヨリ專制國ノ通患ニシテ臣民ノ忠義ハ全ク刑  
 罰ノ其身ニ及フヲ懼ル、ニ因テ出ルモノナルカ故ニ、  
 輦轂ヲ距ルヲ益遠キニ從テ操守ヲ破ルヲ益速ニ一已

ノ富貴ヲ圖ル益深ケレハナリ察セスンハアルヘカラ  
 ス、類勢已ニ斯ク如キニ至テハ國家ハ滅亡シ都城ハ敵  
 ノ有ト為リ、其軍ハ一變シテ勝者ト鎮將ト州郡ヲ爭フ  
 ノ戦ト為ル

抑君主ノ資テ以テ實力、真威トスル處ノモノハ外國ヲ  
 攻畧スルノ快捷ナルニ在ラスシテ外寇ヲシテ進入ニ  
 易カラシメサルニ在テ、即チ其國勢ノ動搖セサル是レ  
 ナリ、然レモ其版圖ヲ開擴スルヲ漸ク大ナル片ハ則チ  
 新疆ハ輒スク外寇ノ為メニ侵犯サル、ヲ免レサルハ  
 又實ニ不得已ノ勢ナリ  
 是故ニ立憲政ノ君相若シ其威力ヲ増加セント欲セハ



宜シク謹慎シテ其大志ヲシテ一定ノ區域ニ止マラシムルヲ要ス之ヲ聰明叡智ト云フ蓋シ方域ノ狹少ニ過キタルハ其不利言ヲ俟タスシテ明了ナリ然レモカノ廣大ニ過キテ起ル處ノ禍害ニ比スレハ啻ニ霄壤ノ差ノミナラス須ラク熟慮セスンハアル可ラス

第七回 考論

大國ノ君主（按佛王路易第十四）在位ノ年祚極メテ長久ナル時ハ敵國往々之ヲ責ムルニ寰宇ヲ混一ニシ衆庶ヲ僕妾ニスルノ大業ヲ企望スト云フヲ以テス是レ強盛ヲ恐ル念ニ起ルモノ居多ニシテ曾テ初ヨリ確証ノ據ル處アルニ非サルナリ

倘シ此霸主ヲシテ其雄圖ヲ逞クシ一統ノ勢ヲ成サシメシニハ歐羅巴列國ノ臣民ハ論ヲ俟タス霸主自身及其戚族ヲ併セテ無比ノ禍害ヲ蒙ムラシムルニ至ルハ蓋シ昊天ハ能ク我カ人民ノ真利實益ヲ洞知セリ故ニ覇業ノ成績ヲ觀ルニ其戦捷ハ少クシテ敗績ニ出ルモノ却テ多シ是レ霸主ヲシテ歐羅巴全國ヲ一統シテ以テ其正朔ヲ奉セシムルヲ無ク唯之ニ惠ムニ至強ノ國君タルヲ以テセシナルヘシ

此君ノ治下ニ在ル臣民ノ如キハ兵役ニ從事シテ國外ニ出ルヤ唯郷里ニ遺スモ（按蕃族ノ外更ニ其心ヲ動カスヘキ者無シ按真ノ愛國ノ心故ニ其郷國ヲ離ル、等ノ無キヲ云フ）

ニ方テハ光榮ノ一事ヲ以テ無二ノ正鵠ト為シ勇進ノ  
氣象甚々熾ナリト雖モ其身一タヒ遠境絶域ニ在ルニ  
及テハ曩ニ正鵠ト認メシ處ノモノヲ以テ却テ妻子團  
園ノ樂ヲ阻格スルモノト看做シ而シテ其心ハ虛榮空名  
浸染セルヲ以テ適良好ノ資質按勇氣忠義等アレハ之カ為メ  
ニ却テ惡行ヲ招クヲ免レス又傷痍ニ耐ヘ危險ヲ冒シ  
疲勞ヲ忍フノ氣カアリト雖モ游樂ノ事ヲ放棄シ能ハ  
ス殊ニ其性洒落ニシテ輕佻ナルヲ以テ敗軍ニ遇フト  
雖モ曾テ愁容ナク恬然詩歌ヲ賦シ將帥ヲ唱詠シ以テ  
自ラ慰ムノ風アリ予以為ラクス如キ臣民ハソノ心  
力鞏固ナラス以テ與ニ天下ヲ一統スルカ如キ大業ヲ

企ツ可ラス唯タ心力鞏固ナラサルカ故ニ若シ一場ノ  
戦利アラサルハ其心忽チ沮喪シ他ニ於テモ其鋒復  
タ振ハス遂ニ桑榆ノ功ヲ期シ難キナリ

〔按〕此一回ハ孟氏佛國ノ時事ヲ論セシモノニテ前  
ノ一段ハ路易王第十四世ノ事ヲ指シ後ノ一段ハ  
專ラ佛國人民ノ性情ヲ指ス蓋シ當時路易王第十  
四世ノ餘威未タ全ク熄マヌ君相ノ間ニハ貪大喜  
兵ノ意アリテ而モ其實ハ國力疲弊シ窘迫ノ色アリ  
故ニ先君ノ一統ノ志ノ成ラサルヲ以テ天幸ニ  
歸シ之ヲ時ノ君相ニ諷シテ潰兵ノ禍ヲ防ケル後  
ノ一段ノ如キハ佛人ノ性情ヲ説キレモノニテ氏



没レテ未タ數十年ニ至ラスレテ拿破侖ノ革命アリ其威ハ寰宇ヲ一統シ海内ニ一王タルノ勢アリレモ西班牙ノ軍利ヲ失シ魯西亞ノ遠征潰ヘテヨリ其氣忽チ一變シテ土崩瓦解ニ歸シ終ニ國倒レ身辱メラレテ止ム一モ孟氏ノ論ニ符合セサルハナシ

第八回 特殊ノ事情ニ依テハ守兵ノ數ヲレテ攻兵ヨリ少カラレムヘキヲ論ス

伯爵古西曾テチャルレス王第五世ニ謂テ曰ク英人ハ自國ニ在テハ極メテ怯弱ナリ故ニ之ヲ征服スルノ容易ナルハ其自國ヲ攻ムルニ若クモノナント此論以テ

之ヲ羅馬加耳他日ノ人民ニ引用レ得ヘシ蓋シ一國ノ人民政治若レクハ民事ニ就テ議論分裂シ互ニ朋黨ヲナシ水火相容レサルニ方テハ軍律ヲ藉テ以テ其心ヲ協和一致セシメシカ為メ一時遠征ノ師ヲ興スニアリ斯ル時ハ其兵ハ他國ニ在テ甚タ強盛ナリト雖モ自國ニ於テハ朋黨ノ軋轢未タ止マス秩序紊亂シ之ヲ調理セント欲シテ益制スレハ益亂レ國勢日ニ微弱ニ傾ノモノナリ

伯爵古西ノ訓言ハ遠征ノ師ヲ興スヲ非トスル處ノ常規ト為スコラスト雖モ斯ノ如キ軍ヲ起ス國民ニ就テ之ヲ論センニハ亦其戒トスルニ足レリ

## 第九回 列國彼此比較ノ兵勢ヲ論ス

總テ一國ノ盛大強勢ナリト云フハ彼此相較ヘテ始メテ生スルモノナリ故ニ治國ノ責メニ當ル者真ノ強盛ヲ増シト欲セハ必ス比較ノ強盛ヲ減セサルニ注意スヘシ

路易王第十四世在位ノ中間ニ方テヤ佛國ハ比較ノ強盛ニ於テ最高ノ点ニ至レリ蓋シ當時日耳曼ノ諸邦ハ其勢未タ微々トシテ今日ノ如キ大國強主ヲ出サス伊太利モ亦然リ英國ハ未タ蘇格蘭ヲ統一スルヲ能ハスカステル及アラゴンノ二邦モ合併ノ名アル而已ニテ一個ノ西班牙ト為ラス彼此ノ邊疆常ニ侵犯ノ患アリ

テ交相疲弊シ魯西亞ハ世ニ半開韃靼ト稱セラレ未タ歐羅巴ノ會盟ニ與カラサリシナリ

## 第十回 隣國ノ微弱ナルヲ論ス

我カ國若シ衰運ニ属スル處ノ隣國ト疆ヲ接スルヲアルト雖モ慎テ之カ滅亡ヲ促ス可ラス蓋シ我ニ微弱ナル隣邦アル時ハ彼レ我カ受クヘキ凌辱ヲ受ケ我カ蒙ムルヘキ災害ヲ蒙ハリ我カ為メニハ量ル可ラサルノ僥倖タレハナリ仮令能ク一舉手一投足ニシテ之ヲ奪フ其勝者ノ所得ノ實力ハ決シテカノ比較ノ強盛ノ減殺スルニ及ハス得失相償サルモノナリ

萬法精理卷之九 畢

萬法精理卷之十

何禮之 重譯

攻軍ニ關涉スル法律ヲ論ス

第一回 攻軍ヲ論ス

攻軍ハ萬國公法ニ基キテ之ヲ調整スヘシ、萬國公法トハ列國彼此ノ交際ニ關涉スル一國ノ政法是レナリ

第二回 戰

政府ノ性命ハ恰モ一私人ノ性命ニ異ナラス故ニ一國ノ保存ヲ謀ルカ為メニ兵端ヲ開クノ權アルハ猶オ一私人カ天然ノ防禦ヲ為スニ方テハ人ヲ殺スノ權アルカ如ク然リ、蓋シ我カ性命ノ我ニ於ルハ猶オ我レヲ殺

ントスルモノ、性命ノ其人ニ於ルカ如ク齊シク貴重  
スヘキモノニシテ、一國ニテ兵端ヲ開クモ其保存ヲ謀  
ルノ情ニ於テハ亦正ニ他ノ有生物ト異ナル處ナケレ  
ハナリ

允ソ一私人カ其身ヲ保存セントシテ天然ノ防禦ヲ為  
スニ方テハ、必ス我ヨリ襲撃ヲ始メサル可ラスト謂フ  
ニアラサルヲ以テ宜シクソノ襲撃ヲ始ムルニ先ツテ  
適當ナル法院ニ赴キ徐カニ其報復ヲ請フヘキナリ、故  
ニ事危急ニ起リテ一身ノ存亡ハ法律ノ助力ヲ仰クニ  
暇アラサルヨリハ猥リニ其防禦ノ權ヲ施スヲ得ス、然  
レモ一國ノ防禦權ニ至テハ一私人ト異ナル所アリ時

トシテハ自ラ襲撃ヲ始メサルヲ得サルノ勢アリ譬ヘ  
ハ一國人民ノ意思ニ於テ目前ノ平和ニ苟安スルハ適  
他國ヲ資ケテ以テ我カ滅亡ヲ招クニ足レリ此時ニ方  
テ自國ノ保存ヲ謀ランニハ我先ツ一舉シテ彼ノ敵國  
ヲ襲撃スルノ外、他ニ策略ナシト認定スル時ノ如キ即  
チ是レナリ

小國ハ大國ヨリモ戦端ヲ開クヘキ權利ヲ有スルヲ居  
多ナリ、是レ小國ハ其滅亡ヲ恐ル、ノ情、大國ニ比スレ  
ハ更ニ甚シキヲ以テナリ此理皆ナ前文ノ事情ニ淵源  
ス

是故ニ開戦ノ權ノ由テ出ル處ハ萬々止ムヲ得サルノ

情勢ト天地ノ公道トニ在ルナリ然ルヲ以テ若シ君心  
ノ是非ヲ糾正シ或ハ軍國ノ樞機ヲ參贊スヘキ責任重  
大ノ人ニシテ苟モ此訓典ニ則テサルコトアレハ開戦ノ  
名義ハ榮譽若クハ便利實益ニ據ルト雖モ必竟公道正  
理ニ淵源セサルヲ以テ其禍ハ流血積屍ノ慘毒見ルニ  
忍ヒサルノ結局ニ至ルハ必然ナリ

殊ニ此大任アル人ヲシテ人君ノ榮譽ヲ藉テ以テ開戦  
ノ名義ト為サレム可ラス蓋シ人君ノ榮譽ハ一片ノ傲  
心一時ノ火氣ニシテ決シテ公道ニハアラサルナリ  
果シテ人君ノ權威ノ光被セルヲ以テ一國政權ノ旺盛  
ヲ致スモノト看做シ乎然ラハ則チ正義ノ令聞四隣ニ

轟クヲ以テ政權ノ威力ヲ増スヘキモノト為スモ其理  
亦齊シカル可キナリ

### 第三回 得勝者ノ權利ヲ論ス

開戦ノ權利アリテ右チ得勝者ノ權利アリ得勝者ノ權  
利ハ即チ開戦ノ權利ノ果實ナリ故ニ得勝者ノ精神ハ  
開戦ノ精神ニ從ハサル可ラス

得勝者亡國ノ人民ニ對シテ所有スル權利ハ左ニ掲ク  
ル處ノ四類ニ依テ之ヲ施行スヘシ第一ハ性法ニシテ  
即チ百事ヲ措置スルニ臨テ總テ人類ヲ保存スルノ一  
点ニ歸スルモノ是レナリ第二ハ天理ノ法ニシテ即チ  
已レノ人ニ施スハ猶才人ヲシテ已レニ施サレムルヲ

欲スルカ如キ趣意ニ則トル是レナリ、第三ハ政治社會  
ヲ構造スル處ノ法律ニシテ性法ノ上ヨリ之ヲ見テモ  
其存立ノ天壽ヲ限リ難キモノ是レナリ、第四ハ事情ノ  
已ヲ得サルニ淵源スルモノ是レナリ、抑モ勝ヲ得ルト  
ハ物ヲ獲ルノ謂ニシテ之ヲ保チ之ヲ用ユルノ意義、自  
ラ其中ニ寓セリ、特リ國ヲ滅シ人ヲ殺スノ一端ニ止ラ  
サルナリ

得勝者カ亡國ノ人民ヲ待遇スル方法ハ左ノ四件ノ一  
ヲ以テスヘシ、其一ハ亡國ノ法律ヲ改革スルヲ無ク依  
然トシテ人民ニ其舊慣ニ仍ルヲ得セシメ、唯タ政法民  
法ノ施行ノミヲ摠攬スルナリ、其二ハ新ニ政法、民法ヲ

制定シテ之ヲ遵奉セシムルナリ、其三ハ國民ノ社會ヲ  
破毀シテ離散ニ就カシムルナリ、其四ハ人民ヲ屠殺シ  
テ子遺ナカラシムル是レナリ

第一件ハ乃チ萬國公法ノ理ニ則リテ今日遵行スル處  
ナリ、第四件ノ如キハ頗ル往昔羅馬人ノ曾テ履踐セシ  
公法ノ意義ニ適當セリ、而メ之ヲ今日教化ノ浹洽セル  
斯ノ如キニ比スレハ其隆替、豈唯霄壤ノミナランヤ、讀  
者自ラ其理非ヲ審カニス可シ、是レ實ニ公道、教法、理學、  
風俗ノ今日ニ至テ、羨ナルモノハ益羨ニ、善ナルモノハ  
益善ニ到リシ、功德ナリ、嗚呼、盛ナリト謂フヘシ  
我カ公法ノ學者ハ唯古史ノ成績ニ拘泥シテ得勝者ノ

權利ヲ以テ萬々已ムヲ得サルノ一事ニ限定セザリシヨリ、遂ニ毫釐千里ノ誤解ニ陷リテ得勝者ハ殺戮ノ權ヲモ具有スルモノト妄想シ、大綱已ニ正義公道ニ悖戾セルヲ以テ其條例定規トスル處ノモノ盡ク慘毒恐ルヘキモノニシテ、カノ得勝者ト雖モ苟モ胸中一点ノ未昧心ヲ存スルモノハ敢テ為スニ忍ヒサルカ如キモノアルニ至レリ。○抑モ征伐ノ大業已ニ竣ル時ハ得勝者ニ於テ天然ノ防禦及自國ヲ保存スルノ名義モ俱ニ止ムカ故ニ更ニ殺戮ノ權ナキヲ亦明瞭ナリ。我カ公法ノ學者ヲシテ此誤解ニ陷ラレメレハ全ク得勝者ハ其國ヲ破毀スヘキ權ヲ有セシト想像セシ一点

ニ在リ此誤解ヨリシテ得勝者ハ其國ヲ成ス處ノ人民ヲモ破毀スヘキ權アリト為スニ至レリ、是レ其源已ニ濁リテ下流ノ清キヲ得サルカ如シ、其國ヲ破毀スルトハ決シテ國ヲ成ス處ノ人民ヲ併セテ破毀スヘキノ謂ニアラス蓋シ國トハ人ノ相集テ成ル處ノ稱ニシテ人民自身ヲ指スニアラス、故ニ國民（按義務權利ハ國ト俱ニ滅フト雖モ人民ハ依然トシテ存在スレハナリ）已ニ國ヲ滅スハ其民ヲ殺スノ權アリト為シ、於是乎政事家ハ尚一步ヲ進メテ人民ヲ驅テ奴隸ニスルノ權アリト主張セリ其理其舉均シク不義ノ事ニ屬ス。得勝者ノ權ハソノ勝ヲ得タル處ノ國土ヲ保存スルニ

須ラク止ムヲ得サル事情ノ外ハ人民ヲ驅テ奴隸ニスル等ノ權絶テ之レ無シトス、固ヨリ時宜ニ依テハ人民ヲ奴隸使シテ以テ其國ヲ保存スルノ策畧ト為サ、ル可ラサルノ事情アリト雖モ得勝者ノ得テ目的トナス處ノモノハ、必竟保存ノ一事ニアリテ奴隸使スルニアラサレハナリ

人民ヲ奴隸使スルヲ縱令保存ノ策畧ニ出ルノ時ト雖モ之ヲシテ永久解放ノ期ナカラシムルハ、物理人情ニ背馳ス故ニ宜シク他日國民ノ權利ヲ得ヘキ期ヲ預定スヘシ實ニ亡國ノ人民ヲ驅テ奴隸トスルハ全ク偶然ノ勢ニ出ルモノニテ許多ノ歲月ヲ經過シタル後ハ風

俗婚姻法律交際等ニ依テ彼此ノ情意稍相和スルニ從ヒ亡國ノ人民漸ク勝國ニ合体シテ一團ト為ルカ故ニ此時ヲ以テ奴隸解放ノ期ト為サ、ル可ラス、蓋シ得勝者ノ權利ノ因テ生スル處ハ全ク兩國人民ノ風俗性情等ノ不同アリ從テ彼此ノ間、交モ偏執ノ見アリテ信誼ヲ失シ互ニ相下ラサルニ胚胎スルモノナレハナリ是故ニ得勝者亡國ノ人民ヲ驅テ奴隸ト為ス時ニ方テハ須ラク之ヲ解放シテ自主ノ民タラシムルノ方術其極ニ達アラサテ常ニ自ラ操持スルヲ要ス

以上ノ所論ハ架空推摹ノ意見ニ出ルニアラス、我先人按歐羅巴北部弗狄ノ曾テ實踐シテ羅馬ノ帝國ヲ克服シタ



ル所以ノモノナリ、當時制定ノ法律ハ兵馬倥傯、人氣激烈ノ際ニ成リシヲ以テ其始ハ嚴酷ナリシモ漸次之ヲ公正平允ナラシメタリ、且ツブルギンデイヤン、ゴットス及ロムバルドノ酋族ノ法律ハ羅馬ノ人民ヲシテ永ク亡國ノ民タラシムルノ意趣ニ在リシト雖モイユリツク、ゴンテバルド及ロタリスノ法律ハ羅馬ノ人民トバルバリヤン(按羅馬ヲ克服シタル北狄ノ人種ト)合シテ全一ノ國民ト為シタリ

查理曼帝ハ薩遜人ヲ馴服セシメント欲シテ其自主權サキツト資產トヲ奪ヘリ然ルニ路馬王別号デボ子ハ又之ニ賜フニ自主ノ民タルノ權利ヲ以テセリ是レ此王ノ治世

中ニテ羨政ノ一ニ屬セリ蓋シ歲月ヲ經ルノ久シキ終ニ其服役ニ慣レ自ラ夷俗蠻習ヲ脱セシカ故ナリト雖モ之カ為メ大ニ勤王ノ志ヲ振作シタリ

#### 第四回 亡國ノ人民ノ利益

前ノ一回ハ專ラ得勝者カ其權利ニ伏テ殺伐破毀ノ事ニ及フヲ説キ去レリ若シ之ニ換フルニ亡國ノ人民ニ與フヘキ利益、亦時トシテ此權利ノ中ニ存スルモノヲ舉ゲ之ヲ政事家ノ為メニ論明センニハ其趣更ニ懿美ナルヲ得シ、且果シテ我カ萬國公法、能ク流行シテ而我地球上、到ル處確立セサルナキニ至ラハ此利益ハ各人ノ知覺ニ感觸シテ皆ナ之ヲ實踐スルハ疑ナカルヘ

亡國トハ概シテ之ヲ言ヘハ固有ノ制度文物陵夷シテ人心澆漓ニ移リ、法律廢シテ暴政行ハル、ノ謂ナリ斯ノ如キ國ハ必ス滅亡ニ就クヘシト雖モ若シ僅ニ殺伐破毀ノ禍ヲ免ル、トテ得ハ或ハ之カ為メ却テ利益ヲ來タシ不幸中ノ幸タルトテ得ント謂ハンニ誰カ之ヲ疑フモノアラン抑モ政道頽壞シテ此極ニ届リ之ヲ革正シ能ハサル時ハ其國ヲ失フモ敢テ損スル處無カル可シ、何トナレハ得勝者戰捷ノ兵ヲ率テ國境ニ入ルヤ富豪ハ已ニ百方詭譎ノ術ヲ盡シ以テ曖昧ノ際ニ人民ノ公財ヲ掠奪シ貧者ハ惡弊ノ久シク行ハレテ一種ノ

法律ト為ルモノ、為メニ殘害凌虐セラレ、之ヲ哀訴セント欲スルモ其門ヲ得サルノ狀態アルヲ目撃スヘハ於是乎得勝者ハ更始一新ノ政ヲ敷キ續テ虐民ノ蠹賊ヲ罰シ其赫怒ヲ洩スヘキヲ以テナリ

一國ノ人民聚斂ノ臣ニ虐待サレ、遂ニ亡國ノ運ニ際會シ始メテ塗炭ノ苦ヲ免レシ類例ヲ見ルト慚カラス、斯ル人民ハ正統ノ君主ニアラサレハ敢テ奉戴セサルノ義務ニ於テハ更ニ拘ラサルモノナリ、殊ニ得勝者ノ手ヲ假ラスシテ惡弊ヲ矯正セシト亦往々之アリ

又得勝者能ク經濟ノ道ニ通スル時ハ亡國ノ人民ヲシテ其正統ノ君主ノ治下ニ在テ曾テ享ケ得サル處ノ生

計ヲモ享ケ得セシムル一時トシテ之ナキニアラス  
 得勝者ハ舊弊ノ邪惡甚シキモノヲ掃攘シテ亡國ノ民  
 ナレテ更ニ善良ノ氣風ニ浸染セシムルヲ得ヘシ  
 西班牙カ墨即可ヲ克服スルニ方テヤ其勢何等ノ慈善  
 ナモ施シ能ハサルノ理アラシヤ西人ハ柔和ノ教アリ  
 以テ之ニ歸向セシムヘキナリ然ルニ却テ妄誕ノ教ニ  
 惑溺セシメタリ奴隸ノ以テ解放スヘキアリ然ルニ却  
 テ自主ノ民ヲ奴隸ニ為セリ異端ニ迷フヲ説破シテ人  
 ナ犠牲ニ供スルノ惡習ヲ一掃ス可キナリ然ルニ却テ  
 人民ヲ屠殺セリ若シ予ヲシテ盡ク西人ノ為シ得ヘキ  
 善事アリテ之ヲ為サス行フヘカラサル惡事アリテ之

ヲ行ヒシモノヲ枚舉セシメンニ八十指モ亦屈スルニ  
 遑アラサラン

得勝者ハ其損害ヲ致シタル一部ヲ彌縫スルノ義務アリ  
 故ニ予ハ得勝者ノ權利ヲ説クニ左ノ見解ヲ下スヘ  
 シ即チ已ムヲ得サルニ出テ、法理ニ適シタル不幸ノ  
 權利ニシテ、而メ此權利ノ中ニハ得勝者、好生ノ德ノ幾  
 分ヲ損害シタルモノヲ修繕スヘキ大義務、常ニ存スル  
 是レナリ

第五回

シラキユース王ゼロン

予以為ラク和睦ノ盟約ノ最モ公明正大ニシテ史冊ノ  
 色ヲ生ス可キハゼロン王カ加耳他治人ト結ヒシモノ

ニシテ其大意ハ加耳他治人ニ迫テ子女ヲ犠牲ニスルノ惡習ヲ廢止スル是レナリ、王ハ一戰ニシテ加耳他治兵ノ三十萬ヲ擊破シタリ而メ其要スル所ノ盟約ハ即チカノ國民ノ利益タル一事ニ在リ其為ル處全ク人類ヲ慈惠センカ為メニ之ヲ行ヒシモノ、如レ、吁、美ナル哉

バクトリヤン人ハ父兄ノ老衰シタルモノヲ大槩ニ投シテ其饑腹ヲ肥セリ歷山帝ノ一舉ニテ此惡習ヲ掃除セルハ謂ツ可シ、帝ノ英武能ク淫祠ノ蠱惑ヲ打破シタリト

第六回 共和政ニテ他國ヲ克服シタルヲ論ス

聯盟合衆ノ政治ニ於テ、甲起テ乙ヲ仆ス今日ノ瑞西聯邦ノ如キハ事理ノ自然ニ相反セリ、然リト雖モ數多ノ共和邦ノ小ナル者ト、方域局促ノ立君國ト聯盟シテ一團ト為リ合衆共和ノ政ヲ為ス者ニ於テハ斯ノ如キアルモ亦其理ナキニアラス  
庶民共和ノ國ニシテ他ノ府邑ノ我カ民主政ノ盟約ニ加ハリ能ハサル者ヲ克服スルモ復タ事理ノ自然ニ相反セリ、若シ事茲ニ及フ時ハ亡國ノ人民ヲシテ羅馬ノ國初ニ定メタルカ如ク依然、其君權ヲ受用セシメサルヲ得ス、且之ヲ克服スルハ正ニ民主政ヲ為スニ必要ナル國民ノ負數ニ止ラサル可ラス

若シ民主國ニシテ他國ヲ征服シテ藩屬トナシ其人民ヲ臣隸タラシメント欲スル時ハ却テ我國ノ自主權ヲ犧牲ニスルノ患アリ、是レ藩屬ノ州郡ヲ鎮壓スルニハ總督ヲ命セサル可ラス此總督ニハ過重ノ權威ヲ授ケサル可ラサルヲ以テナリ

若シハンニバルノ遠征勝利ヲ得テ能ク羅馬ヲ陷レタラニハ加耳他治共和政ノ形勢ハ果シテ如何ソヤ其危險知ルヘキナリ、見サルヤハンニバル當時、徒黨ハ敗績ノ後ニ在テモ其力尚才數回、騷亂ヲ起スニ足レリ況ヤ大捷ノ後ニ在テハ其國ヲ顛覆スル何ノ難キカ之レアラシ

ハンノ一カ元老院ヲ諫メテハンニバルニ應援ノ師ヲ出スヲ止メシハ徒ニ嫉妬ノ私ニ出テシノミニアラス必ス之ヲ阻ムヘキ實據アリテ然リシナラン、カノアリストートルカ思慮ニ富ミシト讚美セシ加耳他治ノ元老院共和政ノ隆盛ヲ極メタルヲ以テ其諛言ノ虚ナラサルヲ保證スモ亦タ一面ノ辭ニ動カサル、モノニ非ラス必ス確乎タル道理アリシナルヘシ、夫レ遠征ノ師ヲ出シテ千里ノ外ニ在リ、兵士ノ喪失ヲ補備スルハ固ヨリ論ヲ俟タサル處ナリ元老院ニシテ豈茲ニ慮リ到ラサル事アランヤ而メ之ヲ為サバリシハ必ス其所以アルナリ

ハンノーノ黨派ハハンニバルヲ縛シテ羅馬人ニ付セ  
ンイヲ主張セリハンノカハハンニバルヲ羅馬人ニ與  
テゴール人ニ與ヘント欲シタルハ猶オカト一カ擡擡  
欲シタルト全一般ナリ當時加耳他治ハ隆盛ノ頂点ニ  
達シテ毫モ羅馬ヲ恐ルノ意アルニ非ルナリ然ルニ  
此言アリシハ全クハンニバルノ威名ヲ患ヘタルヤ疑  
ヒ無シ

或ハ言ハン加耳他治ノ人民ハハンニバルノ成功ヲ預  
定シ能ハサリシナルヘント答テ曰ク否加耳他治ノ人  
民タルヤ四方ヲ經營シテ地球上其足跡ノ至ラサルハ  
無キナリ此人民ニシテ獨リ對岸ノ伊太利ニ於ル軍事  
ニ在テ之ヲ不問ニ措クノ理アランヤ固ヨリ之ヲ熟知

シテ遺ス處ナカルヘシ然ルニソノ糧儲ヲ輸送セサルハ  
故ラニハンニバルヲ棄テ顧ミサリシナリ

トレビヤノ戰トラシメニユスノ戰及カンニーノ戰按皆  
ハンニバルカ羅馬人ノ後ハンノーハ更ニ其論ヲ固執  
シテハンニバルヲ援ケサルニ決シタリ是レハンニバ  
ルヲ信セサルニアラス之ヲ恐ル一益甚シケレハナ  
リ

第七回 同上

民主國ノ他國ヲ克服スルニ方テ更ニ一ノ不利アリ即  
チ其政体甚タ亡國ノ人民ノ厭惡スル處ト為ル是レナ  
リ蓋シ外貌ハ立君ノ政ニ肖似シ而メソノ苛虐ノ實ハ

迫カニ之ニ超乗スレハナリ是レ古今各國ノ往蹟皆ナ  
然ラサルハナレ

亡國ノ人民ハ共和政獨有ノ利益ヲ享ルヲ能ハス又立  
君政獨有ノ殊恩ニ浴スルヲ得ス其情態憫然ニ堪ヘ  
サルモノアリ

茲ニ民主國ニ就テ所論ノモノハ之ヲ貴族共和ニ用フル  
モ可ナリ

第八回 同上

是故ニ若シ共和國ニシテ他國ヲ克服シテ藩屬ト為ス  
「アラン」ニハ為メニ懿美ノ法律ヲ制定シ其人民ノ政  
權民權ヲ整頓シ以テ其喪國ノ際ニ被リタル不利ヲ救

回スルニ孜々トシテ餘カヲ遺サ、ルヲ要ス

吾人伊太利ノ共和政ニ服屬シタル一島ノ地中海ニ在  
ルモノヲ目撃スルニ伊國ノ此島民ヲ支配スルカ為メ  
ニ制定シタル政法民法ハ缺典甚タ多キヲ以テ為メニ  
贖罪法ヲ設ケテ之ヲ補ヒ之ニ依リテ將來エキス、イム  
「オオルマタ」コンシヤシチャ即チ政府ノ内密ヲ知ルノ  
罪ヲ以テ私人ヲ施体ノ刑ニ處ス可ラスト制定シタル  
ハ漸ク輓今ノ事ニシテ必ス各人ノ記憶スル處ナラン  
且其島民ノ特典ヲ得ン「ヲ」請求セシ「屢」之アリ然レ  
氏君主ノ許ス處ノモノハ只他ノ國民ノ通有セル權利  
ニ過サリシ

第九回 立君國ニテ他國ヲ克服スルヲ論ス

若シ立君國ニシテ其封疆ヲ増サスレテ衰微ヲ致ス  
ナク、長ク其國祚ヲ保存スル時ハ其強盛ハ隣國ノ恐懼  
スル處ト為リ、鉅ク其全盛ノ勢力ヲ墜サ、ルヲ得ヘシ  
夫レ一國ノ威勢ニハ必ス天然ノ限界アリ故ニ妄ニ此  
限界ヲ超驤シテ攻畧ニ從事ス可ラス、苟モ其限界ノ恰  
當ニ到レハ則チ茲ニ止マルヲ以テ策ノ得タルモノト  
ス

若シ斯ノ如ク限外ノ國土ヲ克服スル時ハ其兵制ヲ革  
ノ君主ノ名ヲ變スル而已ニシテ従前ノ法院ヲ存シ法  
律ヲ用ヒ、其風俗ヨリ各事各物ニ至ルマテ務メテ舊習

ヲ改メサルヲ佳シトス

若シ立君國ニテ接境近隣ノ土地ヲ畧取シ我カ版圖ニ  
入ルヲアラハ、寛仁大度ヲ以テ其人民ヲ遇セサルヘカ  
ラス

若シ立君國ニシテ雄略遠番之レ務メテ止マサル時ハ  
内地ノ州郡ハ舊弊ノ上、更ニ新害ヲ蒙リ而メ都府ノ  
繁榮スルニ應シテ州郡ノ烟戸日ニ衰耗シ彼此消長ス  
ルハ其常ナリ○若シ此州郡接疆ノ敵地ヲ畧取シタル  
後ニ其人民ヲ遇スルヲ舊國ノ人民ノ如クスル時ハ之  
ヲ得ルモ其益ナク國家ハ為メニ疲弊シ、新附ノ州郡ヨ  
リ都府ニ貢ク處ノ租稅ハ一タヒ出テ還ラス、邊境ノ居



民ハ凋殘零落シテ其防禦堅固ナラス從テ一國ノ人民  
不平ノ志ヲ懷キ之カ為メニ發遣屯戍セシムル處ノ兵  
隊ヲ供給扶持スルノ難カラシ  
輦轂ノ下ハ奢侈繁榮ヲ極メテ頗ル人目ヲ駭カシ、府外  
ノ州郡ハ悽涼疾苦ノ景況アリ、遠隔ノ屬地ニ至テハ却  
テ豊富殷實ナリ是レ雄略遠圖ヲ務ムル立君國ノ免レ  
得サルノ形勢ニシテ其狀、恰モ我カ棲息スル處ノ球星  
ニ似タリ中心ニハ火焰アリ表面ニハ萬物叢生シ而シ  
テ其中間ハ只荒寒ノ岩石アルノミニテ一モ生物ヲ見  
サルト一般ナリ

第十四回 一、立君國、他ノ立君國ヲ克服スルヲ論

ス

時トシテハ甲ノ立君國、乙ノ立君國ヲ克服スルノアリ  
若シ其乙國狹小ナルハ堡壘ヲ以テ之ヲ守ル可ク大  
ナレハ則チ屬地ヲ置テ以テ之ヲ保ツヘレ

第十一回 亡國ノ人民ノ風儀ヲ論ス

勝國者ノ務ムヘキハ亡國ノ人民ヲシテ固有ノ法律ヲ  
享用セシムルノミニアラス、必ス亦其風俗、行儀ヲ存立  
セシムルニアリ蓋シ之ヲ概スルニ人民ノ風俗、行儀ニ  
繚纏タルハ法律ニ於ルヨリモ、其情一層深切ナルモノ  
ナレハナリ

佛人九タヒ伊太利ニ克テ九タヒ其國ヲ逐ハレタル是

レ史家ノ評セシ如ク佛人ノ風俗ハ女子ヲ侮慢狎昵スルカ故ナリ實ニ亡國ノ人民ハ勝國者ノ傲氣慢心ニ壓抑セラレ而メ復タ其淫蕩放肆ニ遇フハ萬々耐ユ可ラス、斯ノ如キ不良ナル風俗ハ乃チ數多ノ狼藉ノ因テ出ル源頭ニシテ一日モ之ヲ容忍シ能ハサリシハ疑フヘクモアラサルナリ

第十二回 塞耳士

按百兒西王ニシテ刑ヲ征服セリノ法律ヲ

論ス

塞耳士王ハラ非デイヤ人ニ迫テ醜陋ナル職業ノ外ハ從事スルヲ禁シタリ此法律ハ決シテ善良ナルモノト謂フヘカラス、蓋シ該王ノ此舉アルハ重大ナル目的

ノ方寸中ニ蟠結スルアリテ唯亡國ノ人民ノ叛亂ヲ戒シムルニ急ニシテ更ニ外寇ノ防禦ニ想ヒ到ラサリシニ由レリ、故ニ百兒西國トライデ井ヤ國トノ人民合併シテ互ニ相頽壞スルニ及テ忽チ外敵ノ覬覦ヲ招キ來セリ、因テ知ル亡國ノ人民ノ氣力ヲ挫テ柔弱ナラシムルヨリモ寧ロ法律ヲ設テ以テ勝國ノ人民ノ質樸勇敢ノ風ヲ維持スルニ若カサルヲ

クミーツ克服シタルアリストーデムスハ百方術ヲ盡シテ勇敢ノ風ヲ消散シ壯輩ノ氣力ヲ柔弱ナラシメントシ、乃チ國中ニ令シテ男兒ノ髮ヲ長クシ女子ト全樣ニ花ヲ簪シ、錦衣繡服、其裳ハ地ニ曳キテ履跟ヲ露ハサ

ルヲ度トシ音樂舞蹈ノ師家ニ赴クヤ必ス女奴ヲ携テ傘、帕、香、扇ヲ齎ラシメ、沐浴スルヤ毎ニ梳具、鏡奩ヲ備ヘシメ而メ其齡二十ニ至ルマテハ必ス此教育ヲ恪遵セサルヲ得サルモノトセリ、抑モ斯ノ如キ教育法ヲ施行スルハ一己ノ性命ヲ偷生センカ為メニ一國ノ君權ヲ捨テ顧ミサルノ小覇者アリスト一ニ非レハ決シテ為シ得サルナリ

第十三回 瑞典王チャルレス第十二世

チャルレス王ハ全ク一己ノ勇武ヲ恃ミ其軍ヲ持スルヤ久シキニ且ラサレハ達シ得サルノ方畧ヲ謀リ其國力ヲ得テ耐ユ可ラサルノ大業ヲ企テ自ラ滅亡ヲ促シ

タリ

曾テ王ノ征服セント欲セシハ衰運ニ傾クノ國

按魯西亞ニ

アラステ旭日ノ勢ヲ有セル帝土ニ在リ而メ魯人ハ王ノ征伐ノ師ヲ用ヒテ以テソノ演武場ト為シ一タヒ挫折スレハ益其兵ヲ鍊テ全勝ノ点ニ近ツキ其國外ニ敗衄スルヲ見テ以テ内國ヲ防禦スルノ方略ヲ學ヘリ然ルニチャルレス王ハ波蘭ノ沙漠中ニ彷徨シテ志滿チ氣昂ク自ラ字内ヲ一統シタルノ妄想ヲ為シ敢テ自國ノ危殆ヲ顧ミス而メ其勁敵タル魯人ハ銳ヲ養ヒ力ヲ蓄ヘ隙ニ乘シテ王ヲ沙漠ノ中ニ鎖シボルチクノ海濱ヲ開拓シテリフオリヤヲ服從セシメタリ

瑞典ハ恰モ水流ヲ變スルカ為メニ泉源ヲ絶タレタル  
江河ノ如シ

チヤルレス王ハプルトワノ役ニ亡ヒサルモ必ス他  
ノ役ニ於テ亡ヒサルヲ得サルナリ、凡ソ命運ノ厄難ハ  
之ヲ醫治スルヲ得ヘシト雖モ、事理人情ニ逆フテ踵  
キ起ル處ノ災害ハ之ヲ奈何トモナシ能ハサルナリ  
事理已ニ王ニ逆フタリ、命運已ニ王ニ逆フタリト雖モ  
未タ王ノ自身ヲ以テ自身ニ逆フタルカ如ク甚シキニ  
至ラサリシナリ  
チヤルレス王ノ舉動ハ現時ノ形勢ニ從ハス唯、一種自  
作ノ方畧ニ從ヘリ、而メ其自作ノ方畧ト雖モ之ニ從フ

「ハ甚タ不忠ナリ、之ヲ要スルニ王ハ歷山帝ノ倫ニア  
ラス、若シ帝ノ麾下ニ在リタランニハ將ニ一方ノ良將  
タルヘキ人品ナリ

歷山帝ノ其謀略ヲ達シ得タリレハ他ナシ、謹慎シテ其  
廟算ニ違ハサリシヲ以テナリ、彼ノ百兒西ノ大軍屢々  
希臘ヲ侵シテ敗績シ希臘カアセンオスヲ征服シ、及ヒ  
カノ一萬ノ退軍ニ於テ一卒ヲモ失ハサリシヲ見テ以  
テ希臘ノ兵器ハ銳利ニシテ而モ戦闘ノ術ニ長シ俱ニ  
其鋒ヲ爭フ者ニアラサルヲ知ル可キニ百兒西ハ傲慢  
ニシテ自ラ戦闘ヲ挑ミ自ラ滅亡ヲ促セリ  
茲ニ至テ百兒西人ハ已ニ反間ノ策ヲ施シテ以テ希臘

ノ國勢ヲ削弱ナラシムルヲ能ハス希臘人ハ一帝ノ下ニ在テ動搖ス可ラサル勢アリ況ヤ帝ハ一國ノ世讎ヲ破リ亞西亞ヲ兼併スルノ虚榮ヲ以テ人心ヲ作興シ人民ヲシテ子来服役ニ就カシムルノ妙術ヲ運ラスニ於テヲヤ

世界ニ於テ其人民最モ勤勞ノ名ヲ有シ而モ宗教ノ理ニ基キテ農業耕種ニ從事スル處ノ帝國ハ其營生ノ計ニ於テ固ヨリ餘裕アリ故ニ敵人之ニ據ル時ハ資ル處アリテ以テ糧食ニ窮スルヲナカルヘキナリ按百兒面山帝ハチヤルレス王ノ如ク輕舉シテ不毛ノ地ニ進マサルヲ謂フ帝王ノ傲氣ヲトスルヲ難キニアラス或ハ數回ノ戦ニ

敗レテ憤懣ニ堪ヘサルヨリ終ニ孤注ノ軍ヲ為シテ自ラ滅亡ヲ促シ或ハ侍臣ノ諛言ヲ信シテ一舉英名ヲ博セント欲シ却テ其國ヲ喪フカ如キモノ是レナリ歴山帝ハ百戰百勝ノ勢ヲ有シテ火氣熾盛ナリシ時ト雖モ道理ノ其胸中ニ閃動スルアリテ能ク方向ヲ指示シタリ故ニ帝ノ紀傳ヲシテ荒誕不替ナラシムルノ稗史家及ヒ刻薄ナル論者ト雖モ此道理ヲ埋滅シテ吾人ニ傳ヘサルヲ得サリシナリ嗚呼智ナル哉帝ノ策略妙ナル哉其策略ヲ運用セシヲ尚オ下回ニ於テ詳ニ帝ノ紀傳ヲ述フヘシ

第十四回 歷山帝

帝ノ遠征ノ師ヲ興スヤ必ス馬西頓ノ邊防ヲ脩メテ外夷侵入ノ虞ナカラシメ希臘ノ民心ヲ服從セシメテ内顧ノ患ヲ絶ツノ後ニ在リ見ルヘシ帝ノ希臘ヲ伐ツテ之ヲ取リシハ全ク之ヲ用ヒテ以テ大業（配細亞）ヲ創成スルノ根基ト為スニ在ルヲ乃チ羅西敦人ノ嫉妬ヲ和シテ其効用ナカラシメ海濱ノ州郡ヲ襲フテ之ヲ有シ茲ニ陸軍ヲ備ヘテ船隊ノ聲援ト為シ以テ彼此響應セシメ其軍ニ臨ムヤ兵勢ノ敵ニ及ハサルモノハ訓練ノ精ヲ以テ之ニ勝チ其糧草常ニ充足シテ兵士ニ庚癸ノ呼ナカラシムルカ如シ實ニ用兵ノ術ニ於テハ一モ間然スル處ナレ人若シ帝ハ勝利ニ依テ百事ノ功ヲ獲シ

ト言ハ答テ云シ帝ハ勝利ヲ得ヘキ百事ヲ竭シテ一モ遺ス所ナキカ故ナリト

創業ノ初ニ方テヤ一朝ノ顛蹶ニシテ動モスレハ覆滅ノ禍ヲ招クモノアリ帝ハ深ク茲ニ慮テ事ノ成否ヲ天運ニ任カセシカ如キヲ甚タ稀ナリ而メ武威已ニ揚リ連戰皆勝ツノ時ニ於テハ破竹ノ勢ニ乘シ敢テ危險ヲ冒セシト亦往々之アリ○帝ノ亞細亞ヲ發スルニ先ツテトリバリヤン及イルリヤンスノ部落ニ進入シテ戰ヲ其人民ニ挑ミシカ如キ軍略ハ恰モ諛撒ノ瓦爾人ト戰フタルト其揆ヲ一ニス而メ大旆ヲ希臘ニ及シテテ（按埃及）ヲ攻メテ之ヲ亡セリ蓋シ此舉ヤ頗ル帝ノ

本意ニアラス故ニテ一ブヲ團ムニ方リ曾テ住民ニ勸  
ムルニ和ヲ講センヲ以テス然レモ聽カスレテ終ニ  
自ラ滅亡セリ○百耳西ノ役ニ船隊ヲ討ツヘキ可否ヲ  
議論スルニ方リバルメニオ帝ノ部ハ其勇敢ヲ示シ帝  
ハ智慮ノ深遠ナルヲ示セリ帝ノ方略ハ百耳西人ヲ誘  
フテ内地ニ進入セシメ其恃ム處ノ船隊ヲ捨テサルヲ  
得サルノ位地ニ導キ而メ希臘ノ必勝ヲ期スル處ノ陸  
戰ヲ以テ之ニ克ツニ在リタイルノ民心ハ百耳西ニ歸  
向シテ動カス可ラス百耳西モ亦タイルノ貿易航海ニ  
依ラサレハ財用ノ給スヘキナレ斯ク唇齒ノ關係アル  
ヲ以テ帝故ラニタイルヲ亡セリ○帝ハダリユース百耳  
西王

ニシテ帝ノカ亞細亞ニ於テ莫太ノ軍勢ヲ召集シテ寸  
勁敵タリ兵ヲ埃及ニ置カサルヲ窺ヒ直ニ之ヲ征服シタリ  
帝ノ希臘ノ藩屬ヲ取りシハグラニクス河ノ役ニ在リ  
按帝ハ三十萬ノ兵ヲ以テダ  
リユースノ六十萬ヲ破レリタイル及埃及ヲ征服セシ  
ハイスレユースノ戰ニアリ按百耳西ノ軍勢ハ騎歩合セ  
死亡シ四萬人ハ生擒セラレタリ而メ世界ヲ一統シテ  
帝ノ死傷ハ僅ニ二百七十人ニ過キス按タリユース  
帝國ヲ開キシハアルベラーノ戰ニアリ最後ノ敗績  
イスレユースノ戰捷後ハ帝ハ唯其攻略シタル邦土ノ守  
備ヲ修繕シ其政ヲ整理スルニ汲々トシテ敢テダリユ  
ースヲ追ハサリシカアルベラーノ捷ヲ得ルニ及テハ  
之ヲ尾撃シテ一瞬ノ隙ヲ與ヘス到ル處寧處ニ暇マ無

ラレメ、其勢、今日一城ニ入レハ明朝之ヲ出サルヲ得ス、  
帝ノ行軍ハ恰モ疾風ノ如ク、ソノ世界ノ帝國ヲ取ルヲ  
猶才競馬ニ勝テ其褒賞ヲ得ルノ容易ナルカ如クニシ  
テ、絶テ戰捷ノ果實ノ如ク見ヘサリシ  
以上、帝ノ政略ノ術ニ巧ミナルヲ述フ、是ヨリ之ヲ保守  
スルノ計ヲ説クヘシ

百耳西平定ノ時、或ハ希臘人百兒西人ノ公限ヲ立テ君  
臣主従ノ交際ヲ為サント勸ムルモノアリ、帝之ヲ聽カ  
ス、帝ノ意ハ唯タ兩國ノ民人ヲ一團ニシテ勝國者、亡國  
者ノ區別ヲ抹却スルニ在リ故ニ大業已ニ成リシ後ノ  
措置ハ公平、明允ニシテ先キニ大業ヲ成ント欲シテ施

為シタル殺伐ノ氣象ト全ク相反シ、強テ百兒西人ヲシ  
テ希臘ノ禮俗ニ從ハシムルハ憤懣ニ堪ヘサルヲ諒察  
シ、帝親ラ百兒西ノ風俗ニ率由シタリ夫ノダリユース  
王ノ母妻ヲ撫卹シ、始終、其禮敬ヲ缺カスレテ終身、怨言  
ナカラシメシモ唯、此惻隱ノ心ニ出タリ而メ帝ノ崩殂  
セリト聞キシヤ亡國ノ人民ト雖モ皆ナ號泣セサルモ  
ノ無シ其社稷ヲ失フタルモノ、眷族ニシテ之ヲ哀慕  
セル斯ノ如シ、豈ニ之ヲ戰勝者ト云ヒ之ヲ篡奪者ト云  
フ可ケンヤ、此數事ハ帝ノ功業中ニ於テ最モ榮譽トス  
ヘキモノニシテ、之ヲ上下六千年ノ歴史ニ求ムルモ復  
タ得ヘカラサルナリ



克服シタル邦土ヲ保固スルハ西國ノ人民婚姻相通シ  
彼此ナシテ一團ナシムルニ如クハ無シ帝ハ亡國ノ  
人民ノ中ヨリ其子女ヲ撰テ妃嬪ヲ冊立シ又廷臣ニ勸  
メ之ヲ娶ラシム故ニ馬西頓ノ人民モ皆ナ之ニ倣テ  
婚姻ヲナセリ羅馬ヲ征服シタルフランク人ブル  
グンデヤン人亦之ニ率由シテ亡國ノ人民ト婚ヲ通ス  
ルヲ准許セリ且フ井レゴット人ハ其初メ西班牙ニ  
於テ之ヲ禁シタリシカ後其禁ヲ解ケリ昔時ノ法律ハ  
限ニ於ルヨリモ人種ノ異全ニ於  
テ區別ヲ立テシカ後之ヲ廢セリ○ロムバルト人ハ之  
ヲ許セシ而已ナラス更ニ之ヲ勸奨シタリ羅馬人ノ曾  
テ馬西頓ヲ衰弱ナラシメント欲セシ時ニ方テハ特ニ

法律ヲ設ケテ異邦ノ人ト婚姻スル事ヲ禁制セリ

歷山帝ハ兩國ノ人民ヲ協和スルヲ以テ其心ト為シ百  
兒西ノ國中ニ數多ノ植民地ヲ開キ希臘人ヲ焉ニ移住  
セシメタリ於是乎無數ノ府邑ヲ創建シ新畧ノ各部ヲ  
安撫シ大ニ民心ノ輯和ヲ得タリ故ニ崩殂ノ後騷亂國  
中ニ起リテ兵禍解ケス殺氣慘怛殆ント滅絶ニ就クノ  
勢アルニ至テ百耳西ノ州郡ハ獨リ依然トシテ其正朔  
ヲ奉シ一モ離畔スル者有ラサリシナリ

帝ハ希臘馬西頓ノ疲弊ニ堪ヘサランヲ慮テ猶太ノ  
教徒ヲ招キ之ヲ歷山大ニ移シテ植民地ヲ開カシメタ  
リ帝ノ問フ處ハ彼ノ人民ノ信義アルト否ラサルトニ

在ルノミニテ敢テ其風俗ノ異全ヲ顧ミサリキ其後シ  
ハ帝ノ良制ヲ守ラス猶太ノ教徒ナレテ強テ希臘人ノ  
風俗ニ從ハレメ之カ為メニ大ニ政府ノ權ヲ墜シタリ  
帝ハ亡國ノ人民ヲシテ其國固有ノ風俗行儀ヲ存セシ  
ムルノミナラスソノ民法ヲモ變革セシテ無ク時トシ  
テハ舊來ノ君主宰尹ヲ置キテ疑ハス乃チ馬西頓人ニ  
兵權ヲ掌ラシメ土人ニ政務ヲ委任シタリ蓋シ帝ハ一  
人不臣ノ心ヲ懷クノ危險ヲ冒スモ寧ロ人民總体ノ反  
亂ヲ避クルヲ以テ策ノ得タルモノト為セハナリ按亡  
君主ヲ存スレハ時ニ不軌ヲ謀ルノ禍ヲ生スルヲ免レ  
ス然レバ之ヲカノ新ニ官吏ヲ置キテ人民其虐ニ堪ヘ  
ス、摠體、蜂起シテ反亂スルモ  
ノニ此スレハ、自ラ輕重アリ  
帝ハ昔時ノ遺俗ニ於テ毫モ蔑視セス國民ノ榮譽即チ

虚誇ヲ表示スヘキ事蹟ハ都テ之ヲ敬重シ百兒西歷代  
ノ君主カ嘗テ毀テシ處ノ希臘巴比倫及埃及ノ寺觀ヲ  
再建シ而メ國ヲ滅セシテ無慮數百ナリシモ其宗教ヲ  
奉セスレテ其人民ヲ服從セシメシハ甚タ妙クレテ纔  
カニ其一ニ過キス實ニ帝ノ戰ニ勝テ國ヲ獲ルハ其  
意恰モ其國固有ノ君主ト為リ其土地第一等ノ住民ト  
為ラント欲セシモノ、如シ按能ク其國ノ風俗ヲ守リ  
人民ヲシテ他國ニ兼併セラレ其國ノ宗教ヲ奉シ亡國ノ  
シテ忘却セシムルヲ云フ羅馬人ノ目的ハ克テ之  
ヲ毀ツニ在リ而レテ帝ハ之ヲ保ツニ在リ故ニ帝ノ戰  
盡チ一國ニ向ケテ之ヲ征服スルヤ必ス之ニ依テ其國  
ノ繁榮威勢ヲ増加セシムルヲ以テ胸算ノ大且重ナル

モノト為セリ、而ノ其之ヲ果タサシメシモノハ第一ハ  
天縱ノ睿智ナリ、第二ハ奢侈ヲ好マス一身ノ經濟ヲ節  
シテ汎濫ナラサルナリ、第三ハ有功ヲ褒賞シテ吝嗇ナ  
ラサルナリ、蓋シ其一身ノ用途ニ於テハ極メテ慳吝ニ  
シテ苟クモ一物ヲ妄費セスト雖モ國事ニ至テハ寬厚、  
豪俠ニシテ萬金ヲ揮霍スルモ更ニ德色無シ、故ニ帝カ  
内寢ノ用度ヲ見レハ馬西頓ノ一私民ニ過キサルモ、其  
將士ヲ扶持シ希臘人ト俱ニ攻畧ノ土地ヲ分有シ而メ  
功ヲ賞シ勞ヲ慰ムルノ恩典ノ如キニ至テハ其豐裕ナ  
ルヲ歷山大帝ノ大度ニ愧チル處ナカリシ  
帝ノ功業中、二事ノ聖累タルヲ免レサルモノアリ、其一

ハクリトスヲ殺セシト是レナリ、然レ臣帝之ヲ悔ヒシ  
ト甚シキカ故ニ却テ仁聞ヲ得タリ是レ史家及後世ノ  
人ヲシテ帝ノ罪ヲ忘レテ唯其德ヲ仰キ、之ヲ功業中ノ  
不幸ナルモノト看做シ敢テ有心ノ惡行ト看做サシメ  
サル所以ナリ、且後世帝ノ紀傳ヲ讀ムモノハソノ喜怒  
ノ平ヲ失セル際ニ於テモ猶オ其德ノ美ナルニ驚キ之  
ヲ憫ムモノハアレ臣之ヲ惡ムモノハアラサルナリ  
茲ニ歷山帝ト諛撒トヲ比較セン諛撒ハ虛榮外觀ヲ飾  
テ亞細亞ノ帝王ヲ僭擬セント欲シ却テ全胞ナル國民  
ニ失望ノ憂ヲ蒙ラレメ、帝ハ之ニ摸倣シテ建國ノ大業  
ヲ成就シタリ、人物ノ高下、自ラ分明ナラン

第十五回 亡國ヲ保存スルノ新策

一國ノ君タル者大國ヲ征服シタル時ニ方テ施行スヘキ妙策アリ、之ニ賴レハ一ハ以テ專制ノ暴權ヲ寛和ニス可シ、一ハ以テ亡國ヲ保存スルニ足テ俱ニ其利ヲ享クヘシ、何ゾヤ現ニ支那ニ於テ施行スル者は是レナリ今日支那ノ寶位ヲ踐ム處ノ愛親覺羅氏ハ亡國ノ人民ヲシテ其氣力ヲ沮喪セシメス勝者ヲシテ暴謾ナラシメス政治ヲシテ武斷ニ歸セシメス兩國ノ人民ヲシテ其分限ノ中ヲ超ヘサラシメンカ爲メ、諸省ニ備ヘタル軍團ヲシテ一半ハ漢人ヲ用ヒ一半ハ滿人ヲ用ユルノ法制ト爲シ、兩國ノ人民ヲシテ互ニ防忌スル所アラシ

メ以テ其野心ヲ約束セリ、司法ノ官吏ノ如キモ亦然リ此法ヤ至テ美妙ニシテ而モ無數ノ良果ヲ結フモノナリ、兩國ノ人民互ニ相制シ相警ム是レ其一ナリ、兩國均シク文武ノ權ヲ維持シテ、彼此輕重ナカラシム是レ其二ナリ、勝國者ハ新ニ其版圖ヲ擴充スルモ更ニ自國ノ疲弊ヲ招クニ至ラス是レ其三ナリ、其他人種ノ別ヲ立テサルカ故ニ以テ内訌、外患ニ當ラシム可シ、古今、各國ニテ他邦ヲ征服セシ者久カラスシテ自ラ覆滅ニ及フモノ比々トシテ絶エサルハ斯ノ如キ美妙ノ制度ヲ設立セサルニ由ルナリ

第十六回 專制君ニテ他國ヲ克服シタルヲ論ス

若シ夫レ征服シタル邦土、方域極メテ廣大ナルハ之ヲ治ムルニ專制ノ權ヲ以テセサル可ラス果シテ然ラシニハ國中ニ散布スル處ノ兵備ハ以テ之ヲ鎮壓スルニ足ラサル可シ、於是常ニ忠義無二ノ軍團一隊ヲ置テ以テ君主ノ親兵ト爲シ、若シ國中ニ反覆不定ノ徒アリテ不軌ヲ企ツルコアル時ハ親兵ヲ以テ之ヲ撲滅スルヲ疾雷ノ如キヲ要ス、此親兵ハ其勢能ク自餘ノ軍團ヲ惕服セシメ且止ムヲ得サルノ際ニ方テハ政權ヲ委任セシ大吏ト雖モ之ヲ彈壓シテ畏忌ノ心ヲ懷カシムルニ足ルヲ要ス、支那帝ハ多數ナル滿州ノ親軍アリテ不虞ニ備フ印度土耳其日本ノ諸邦ノ如キモ皆ナ親兵アリテ君主ニ直隸シ其干城ト爲ルヲ以テ專ラ常備兵ニ依

賴セス

第十七回 全上

專制ノ君主ノ克服シタル邦土ニハ宜ク侯伯ヲ封シテ之ヲ保ツ可キハ已ニ前ニ論セシカ如シ、而シテ古今ノ史家嘖々トシテ戰勝ノ君主ノ大度能ク亡國ノ君ヲシテ其失ヲタル位ニ復セシムルモノヲ讚美セサルハ無シ、此事ニ於テ最モ寛大ナル者ハ羅馬人ナリ羅馬人ハ幾多ノ王ヲ封シテ以テ之ヲ奴隸使スル器械ト爲セリ、是レ形勢ノ然ラサルヲ得サルモノニシテ決シテ失策ニアラス蓋シ若シ勝者其國ヲ滅シテ而シテ之ヲ保タント

萬法精理卷之十  
欲セハ鎮將ヲ置テ之ヲ治メシムルモ其威ハ人民ヲ鎮  
壓シテ本分ヲ守ラシムルニ足ラス、又勝者モ自ラ能ハ  
サル處アレハナリ、其故他ナシ勝者ハ新略ノ邦土ヲ鞏  
固ナラシメンカ為メニ舊兵負ノ幾分ヲ分遣セサルヲ  
得ス然ル時ハ新邦、舊邦、齊シク其弊ヲ被リ其際ニハ雀  
角、鼠牙ノ訟、彼此ノ人民ニ生シテ一日ノ寧處ヲ得サル  
ヲ以テナリ、之ニ及シテ若シ舊家ノ君主ヲ封スルハ  
附庸ノ盟約ヲ得ルハ論ナク其兵ヲ併セテ以テ勝者ノ  
武威ヲ増加スヘキナリ、輒令シヤーナダルノ事業ニ就  
テ其例ヲ得タリシヤーナダルハ蒙古ニ克テ其財寶ヲ  
取リ印度ノ地ハ之ヲ舊主ニ領有セシメタリ

萬法精理卷之十

明治八年十一月廿八日版權免許

繙譯並出版人 何 禮之

東京富士見町四丁目十一番地

馬喰町二丁目

島村利助

芝太神宮前三島町

山中市兵衛

日本橋通三丁目

丸家善七

南傳馬町二丁目

穴山篤太郎

發兌  
書林